

STANDARD

携帯型デジタルトランシーバー

VXD20 *Digital*
【資格不要】

デジタル
30
チャンネル

Digital Convenience Radio

3R 登録局



取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書
をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

この無線電話装置は国内専用モデルです。
海外では使用できません。

目次

はじめに.....	1
構成品.....	2
防水性について.....	2
電波干渉について.....	2
安全上のご注意.....	3
各部の名前と機能.....	8
ベルトクリップの取り付けと使いかた.....	11
電池パックの取り付け / 取り外し.....	12
リチウムイオン電池パックについて.....	13
リチウムイオン電池パックの充電方法.....	14
デジタル簡易無線局について.....	16
UC(ユーザーコード)通信のしかた.....	17
UC(ユーザーコード)通信の設定手順.....	18
UC(ユーザーコード)通信方法.....	19
個別通信のしかた.....	23
個別通信の設定手順.....	24
呼び出し方法.....	25
呼び出しを受けたとき.....	29
通信時に動作する機能に関して.....	30
各種の便利な機能.....	31
スキャン機能.....	31
緊急アラーム機能.....	31
秘話通信機能.....	32
録音機能.....	33
ディスプレイ照明機能.....	33
ボタンロック機能.....	34
ポジションライト機能.....	34
ピープ音によるチャンネル確認.....	34
簡易リスト.....	35
リピート再生.....	35
録音メモ.....	36
自局情報.....	36
送受信メニュー.....	37
アンサーバック.....	37
着信履歴.....	38
発信履歴.....	38
メッセージ送信.....	39
メッセージ確認.....	40
通信の機能設定 ～コールモード～.....	41
トランシーバーの詳細設定 ～セットモード～.....	49
オプションマイクの取り付け.....	65
キャリングケース“LCC-D450”の使いかた.....	66
故障かな?と思う前に.....	68
オプション.....	68
定格.....	69
付録.....	70
索引.....	72

はじめに

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受けることが必要です。

本機をご使用になる前に、別紙「無線局登録申請の手引き」を参考にして、必ず登録申請を行い、登録状の交付を受けてください。

注意

登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第9章 110条に定められた罰則（一年以下の懲役又は百万円以下の罰金）が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

● ご利用にあたって

- ◎ 本機は、技術基準適合証明を取得し、ARIB規格に準拠していますので、他社のデジタル簡易トランシーバー（種別コード「3RJ」）との互換性を確保しています。ARIB規格以外の機能の互換性はありません。
- ◎ 本体背面に貼り付けてある“証明ラベル”を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
- ◎ 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
- ◎ 本説明書には、工場出荷時の標準的な設定での説明が記載されています。

● 免責事項

- ◎ 取扱説明書に記載の使用方法とは異なる使用方法により発生した故障、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。
- ◎ 本機を使用して生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

● アフターサービス

- ◎ 正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがお買い上げいただきました販売店にご相談ください。

八重洲無線株式会社

国内営業部

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイトビル

電話：03-6711-4055

構成品

◎ 本体 (VXD20)..... 1	◎ ダミーボード..... 1
◎ アンテナ* (ATU-12J)..... 1	◎ ハンドストラップ..... 1
◎ ベルトクリップ..... 1	◎ 取扱説明書 (本書)..... 1
◎ リチウムイオン電池パック (FNB-V87LIA).... 1	◎ 簡単操作ガイド..... 1
◎ 急速充電器 (VAC-50A)..... 1	◎ 無線局登録申請書..... 1
チャージャースタンド+ ACアダプター	◎ 無線局登録申請の手引き..... 一式
	◎ 保証書..... 1

※ λ/4 短縮型、利得 2.14dB 以下

- ・保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることをご確認ください。
- ・不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

防水性について

本機は、IEC 国際規格 IP67 相当 (防塵等級 6^{*1}、防水等級 7^{*2}) の防塵、防水性能を有しています。この防水性を未永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

- ◎ キーやボタンのラバー、MIC/SP 端子のキャップ、電池パック接合部分などに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
- ◎ 海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水で洗い流し、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- ◎ 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高压の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- ◎ 本機は、水中での使用はできません。

※ 1 : 粉塵が内部に侵入しない。


※ 2 : 加圧を加えない真水・静水に水深 1 m の位置で 30 分間没しても有害な影響を受けないこと。


電波干渉について


近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合に、隣り合うチャンネル同士の電波の干渉により、通話に支障が生じることがあります。このような時は、隣り合うチャンネル (例: “-CH01-” と “-CH02-”) でのご使用を避けていただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。



安全上のご注意 ～必ずお読みください～


本機を安全に正しくお使いいただくために、次のことに十分ご注意ください。

 **危険** 誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 **警告** 誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。


 **注意** 誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。


 行ってはならない禁止事項です（例  分解禁止）。


 必ず守っていただきたい注意事項です。

危険


●使用環境や条件について

 自動車を運転しながら交信や操作をしない
事故の原因になるだけでなく、道路交通法違反になります。
運転者が使用するときには、車を安全な場所に止めてから操作してください。


 航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では電源を切る
電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。


 引火性ガスの発生する場所や高所などの危険な場所で使用しない
発火事故や落下事故などの原因になります。

●トランシーバーの取り扱いについて

 電源端子をはんだ付けやショートをしない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。

●電池パックの取り扱いについて

 リチウムイオン電池パックを火のそばや、炎天下など高温の場所で
充電・使用・放置しない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

 加熱したり、火の中へ投げ込まない
漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

次ページへ続く



危険



分解・改造・破壊しない

漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パックの端子にはんだ付けやショートをしない

線材で配線したりネックレスやヘアピンなどでショートをしないでください。

漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



警告

●トランシーバーの取り扱いについて



分解や改造をしない

本機は電波法に基づく無線局です。

分解や改造は違法ですのでおやめください。また、ケガ等の事故や故障の原因になります。



本機は、“IP67 相当”の防浸構造になっておりますが、特に海水などがついたときは水で洗い流し、乾いた布などで拭きとる

性能や寿命を低下させる原因になります。



周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避ける

温度：-20℃～+60℃、湿度：95%(35℃)の範囲以内で使用してください。



自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。



心臓ペースメーカー装着者は使用しない

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。



煙が出ている、変な臭いがするときは電源スイッチを切って、リチウムイオン電池パックを外す

火災や故障の原因になります。お買い上げいただきました販売店または、八重洲無線株式会社国内営業部に修理をご依頼ください。



心臓ペースメーカー装着者に配慮し、人ごみでは電源を切る

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

●充電器の取り扱いについて












当社指定以外の充電器を使用しない


火災や故障の原因になります。

次ページへ続く

警告















-  引火性ガスの発生する場所で使用しない
発火事故の原因になります。
-  チャージャースタンドから煙が出ている、変な臭いがする、電池パックが通常より発熱していると異常が感じられるときは、トランシーバー / 電池パックを外し AC アダプターをコンセントから外す
異常状態のまま使用すると、火災・破裂・発火などの原因になります。
-  チャージャースタンドの端子をはんだ付けやショートをしない
線材で配線したり、ネックレスやヘアピンなどでショートをしないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
- 電池パックの取り扱いについて
-  リチウムイオン電池パックが漏液して皮膚に付着したり、目に入ると危険
化学火傷を起こすおそれがあります。直ちに医者への診断を受けてください。
-  電池パックは濡れた状態でトランシーバーや充電器に装着しない
トランシーバーや充電器の端子に水や海水が付着して故障の原因になります。
-  電池パックは指定機器以外の用途に使用しない
機器の故障だけでなく、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
-  電池パックを電磁調理器等の中や上に置かない
電池パックの漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
-  指定時間以上、電池パックを充電しない
満充電の状態でも再度充電を行うと、過充電となり電池パックの漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
-  指定時間を超えて充電が完了しないときは、ただちに電池パックの充電を中止する
電池パックの劣化だけでなく、漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

注意

- トランシーバーの取り扱いについて
-  アンテナやハンドストラップを持って、本体を振り回したり投げたりしない
本人や他人に当たり、ケガの原因になります。
また、本体の故障や破損の原因にもなります。

次ページへ続く

注意

-  アンテナを折り曲げたりしない
アンテナの変形や破損の原因になります。
-  強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない
故障の原因になります。
-  磁気カードなどをトランシーバーに近づけない
キャッシュカードやフロッピーディスクなどの内容が消去されることがあります。
-  人の多い場所では使用しない
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。
-  トランシーバーを直射日光の当たる場所や熱器具の近くに放置しない
変形や変色等の原因になります。
-  シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
変形や変色等の原因になります。
ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
-  小さなお子さまの手の届かない場所に保管する
ケガなどの原因になります。
 - 充電器の取り扱いについて
-  分解や改造をしない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
-  水のかかる場所での使用や、濡れた手で触らない
故障や感電する原因になります。
-  火のそばや、炎天下など高温の場所で充電・放置しない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
周囲温度が+5℃～+35℃の範囲内にある所で使用してください。
-  指定以外の電池パックを充電しない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
-  電源コードの上に重いものを載せない
電源コードが傷つき、火災や感電などの原因になります。
-  小さなお子さまの手の届かない場所に保管する
ケガなどの原因になります。
-  シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
ケースが汚れたときは、乾いたやわらかい布で拭き取ってください。

次ページへ続く



注意

●電池パックの取り扱いについて



強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない
漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パック単体で、水や海水などにつけたり、濡らさない
破損や性能、寿命を低下させる原因になります。



電池パックを本体に装着したまま長時間放置 / 保管したり、周囲の温度が
-20℃～+35℃の、腐食ガスのない湿度の低い乾燥した場所以外での保管は
しない
性能や寿命を低下させる原因になります。



直射日光の強い所や高温の場所での使用・放置をしない
発熱・発火・電池パックの性能や寿命を低下させる原因になります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
変形や変色等の原因になります。
ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管する
ケガなどの原因になります。

●オプションについて



指定以外のオプションを使用しない
故障や破損の原因になります。
当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故
などの損害については、当社では一切責任を負いません。

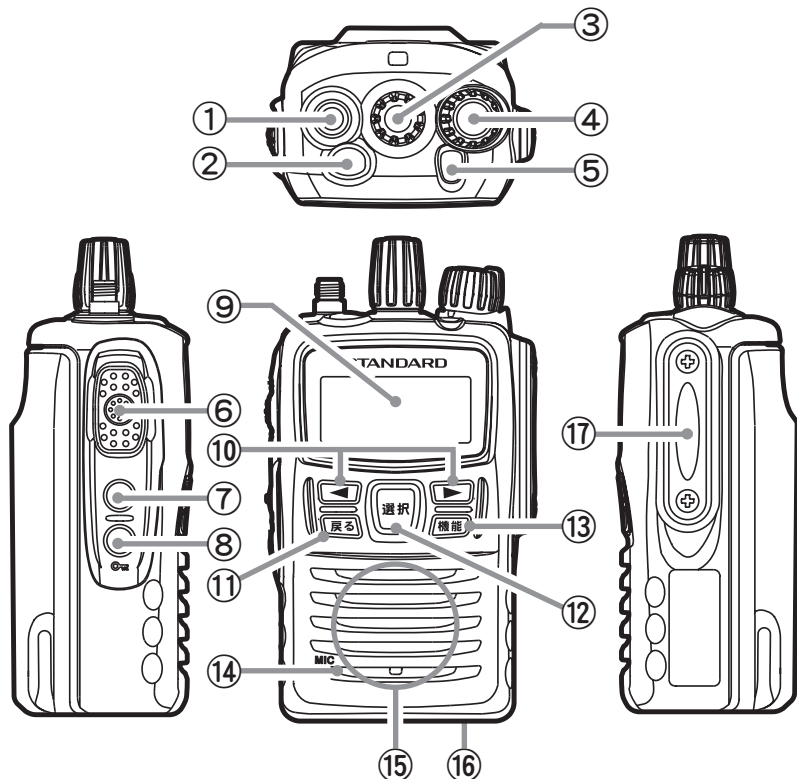


オプションのマイクロホンを取り付けた際は、コードを強く引き伸ばしたま
まにしない
コードの断線などにより、故障の原因になります。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

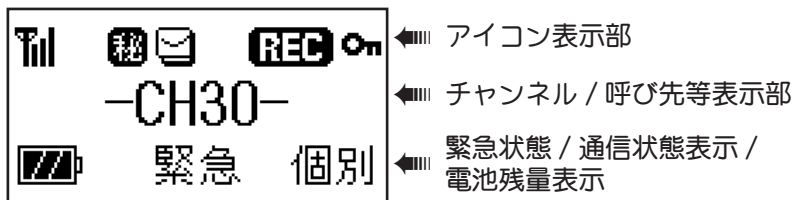
各部の名前と機能

本体



- ① アンテナコネクター 付属のアンテナを接続します。
- ② スキャン / 緊急ボタン
- ◎ “スキャン機能” (31ページ参照) が動作します。再度押すと、スキャン機能が停止します。
 - ◎ 約3秒以上押し続けると、緊急モード動作になります。
- ③ ロータリースイッチ チャンネルや、コールモードやセットモードの項目選択時にまわります。
- ④ 電源スイッチ / 音量調節ツマミ 電源の ON/OFF と音量の調節をします。

- ⑤ LED インジケーター 受信中は通信方式により“緑色”“水色”“青または白色”の点滅、送信中は“赤色”または“青色”に点灯します。バッテリー消費時は、“赤色”で点滅します。
- ⑥ PTT (通話) ボタン 押すとトランシーバーは送信状態になります。放すと待ち受け / 受信状態になります。
- ⑦ 録音 / P ライト ボタン
- ◎ 短く押すごとに受信音声の録音の開始 / 停止を行います (33 ページ参照)。
 - ◎ 2秒以上押すと LED インジケーターを常時点灯 (または点滅) します。暗所で簡易ライトやトランシーバーの所在確認等に使用することができます。
- ⑧ バックライト /
On (キーロック) ボタン
- ◎ 短く押すとディスプレイの照明を ON/OFF します。
 - ◎ 2 秒間押し続けると、誤って各種ボタンに触れても設定が変わらないようにロックすることができます。もう一度 2 秒間押し続けるとロック解除となります。
- ⑨ フルドットディスプレイ 各種状態や情報を表示します。
- ⑩ ◀/▶ ボタン 各種機能で、設定値を変更するときの“桁”を選択します。
- ⑪ 戻るボタン 各種設定を行っているときに、1 つ前の状態に戻すことができます。
- ⑫ 選択ボタン
- ◎ チャンネル以外に各設定内容 (ユーザーコード、秘話 ON/OFF 等) を確認することができます。
 - ◎ “選択” ボタンを押しながら “電源” スイッチをまわすことで拡張機能画面になります。
- ⑬ 機能ボタン
- ◎ 短く押すと簡易リスト画面 (35 ページ参照) を表示します。
 - ◎ 2 秒以上押すと送受信メニューに切り替わります (37 ページ参照)。
- ⑭ マイク この位置にマイクが内蔵されています。
- ⑮ スピーカー ここから相手の音声や操作音が聞こえます。
- ⑯ ノイズキャンセリング孔 周囲の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信するために設けられています。この穴は塞がないようにしてください。
- ⑰ MIC/SP 端子 MIC/SP 端子カバーを外して、スピーカーマイクなどのオプションを接続します。

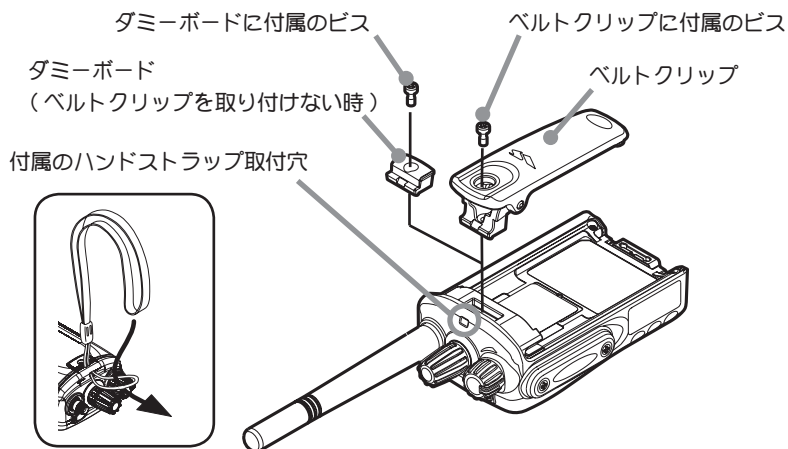


	アンテナ（電界強度表示 / 送信出力表示） 受信時：受信している電波の強さに応じて4段階で表示します。 送信時：5W出力時は“”、1W出力時は“”が点灯します。
	秘話 秘話機能がONのときに点灯します。
	メッセージ ショートメッセージ送信中および、受信中に点滅します。
	録音メモアイコン 音声メモ機能が“ON”のときに点灯します。
	キーロック 設定されたボタンやツマミがロックされ、キーロック機能が動作している時に点灯します。

ベルトクリップの取り付けと使いかた

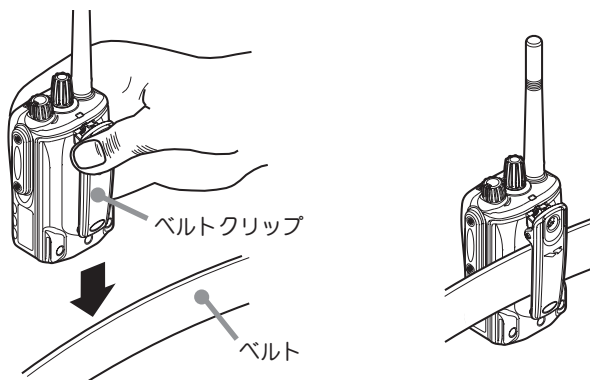
ベルトクリップ / ダミーボードの取り付け

- ① リチウムイオン電池パックまたは、アルカリ単3乾電池ケースを外します。
- ② ダミーボードを外し、ベルトクリップに付属しているビスで、ベルトクリップを取り付けます。



ベルトクリップの使いかた

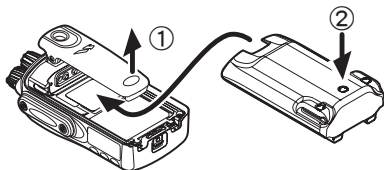
ベルトクリップの先端を指で押し、ベルトへ確実に取り付けてください。



電池パックの取り付け / 取り外し

リチウムイオン電池パックを取り付ける

- ① ベルトクリップを取り付けている場合は矢印の方向に上げます。
- ② リチウムイオン電池パックの背面を押しながらスライドし、「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。

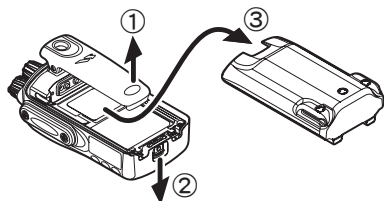


注意

- 電池パックが確実に取り付けられていないと、落下事故や故障の原因になります。
- 機能性を確保するため、電池パックと本体との接合は、きつく設計されています。

リチウムイオン電池パックを取り外す

- ① ベルトクリップを取り付けている場合は矢印の方向に上げます。
- ② ロックレバーを矢印の方向に下げます。
- ③ リチウムイオン電池パックを下側に引きながら外します。



注意

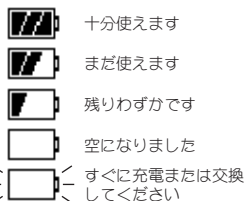
- ロックを外す時は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。
- 機能性を確保するため、電池パックと本体との接合は、きつく設計されています。

電池の消耗について

電池が消耗すると、ディスプレイの電池マークが右記のように変化します*。

電池マークが点滅し、LED インジケーターが赤色に点滅した時は、直ちに充電を行ってください。

* 消耗状態を正しく表示させるため、「セットモード」の「F-14 電池残量表示」(59 ページ参照)で、使用する電池の種類を設定してください。



リチウムイオン電池持続時間*

FNB-V86 シリーズ	約 8 時間
FNB-V87 シリーズ	約 14 時間
FNB-V92 シリーズ	約 18 時間

*電池持続時間は常温 / 常湿において「送信出力 5W 時、送信 5 : 受信 5 : 待ち受け 90」の測定条件になります。周囲の温度により使用できる時間は異なります (極端に高温または低温の場所では使用時間が短くなります)。


リチウムイオン電池パックについて

リチウムイオン電池パックは、使い切らずに継ぎ足し充電が可能な電池パックです。運用する時は満充電にしてからご使用ください。なお、満充電の状態ですと再度充電をすると過充電となり電池の寿命を短くする原因になりますのでご注意ください。

電池パックの使用条件

◎ 周囲温度が -20°C ~ $+60^{\circ}\text{C}$ の範囲内で使用してください。

電池パックの保存方法

- ◎ 周囲温度が -20°C ~ $+35^{\circ}\text{C}$ の、腐食ガスのない湿度の低い乾燥した場所で保存してください。
- ◎ 高温の場所で保存すると、劣化の進行を早めることがあります。なるべく低温状態で保管してください。
- ◎ 長期間放置 / 保管するときは、次のことを守ってください。
 - ・ トランシーバーから電池パックを外す。
 - ・ 満充電または完全に使い切った状態にしない。
 - ・ 満充電にした状態からディスプレイに  (電池残量が約50%)が表示されるまで使用してから保管する。
 - ・ 長期間放置 / 保管後は電池容量が低下していることがあるので、必ず充電してから使用する。
 - ・ 過放電を防止するために、半年に一回、補充充電(50%程度)をする。

電池パックの特性について

- ◎ 過充電 / 過放電などの無理な条件が重なると寿命が短くなります。
- ◎ 電池パックは消耗品です。充電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- ◎ 満充電にしても持続時間が短くなってきたときは電池パックの寿命ですので、早めに新しい電池パックをお買い求めください。

電池パックのお手入れ

- ◎ 上面のプラス端子とマイナス端子及び背面の充電端子を定期的に綿棒等で拭いてください。
- ◎ ケースが汚れた場合には、シンナーやベンジンなどを使わず、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

使用済みの取り扱い

- ◎ 上面のプラス端子とマイナス端子及び背面の充電端子をテープ等で絶縁してください。
- ◎ 電池パックを分解しないでください。

リチウムイオン電池パックはリサイクルできます。

リチウムイオン電池パックが不要になった場合は廃棄せずに、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。



リチウムイオン電池パックの充電方法

付属の急速充電器 (VAC-50A) で、リチウムイオン電池パックを充電します (次ページ参照)。

補足

- リチウムイオン電池パックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。
- 充電は、周囲の温度が“+5℃～+35℃”の場所で行ってください。

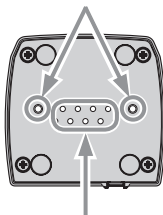
充電時間*	FNB-V86 シリーズ	FNB-V87 シリーズ	FNB-V92 シリーズ
	約 100 分	約 160 分	約 200 分

お使いになる時のご注意

- ◎ 専用の AC アダプター以外の電源は絶対に使用しないでください。
- ◎ 急速充電器は充電機能のみで、外部電源としての機能はありません。
- ◎ 空の電池パックをチャージャースタンドに挿し込むと、充電開始の赤色ランプが点灯せずに充電終了の緑色ランプが点灯することがあります。その場合は、チャージャースタンドから電池パックを抜き取り2～3秒経ってからもう一度挿し込んでください。
- ◎ 空の電池パックをチャージャースタンドに挿し込むと、充電開始の赤色ランプが点灯しすぐに充電終了の緑色ランプが点灯することがあります。数回電池パックを差し込み同じ症状になる場合は、電池パックの寿命です。新しい電池パックに交換してください。
- ◎ 充電中にチャージャースタンドや AC アダプターが発熱する場合がありますが故障ではありません。
- ◎ 充電中にテレビやラジオにノイズが入ることがあります。できるだけ離してください。

急速充電器を使用する時のご注意

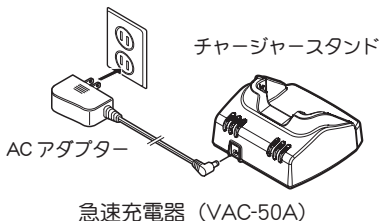
チャージャースタンドの底面にあるネジ穴は使用しないでください。
内部の基板を破損する原因になります。



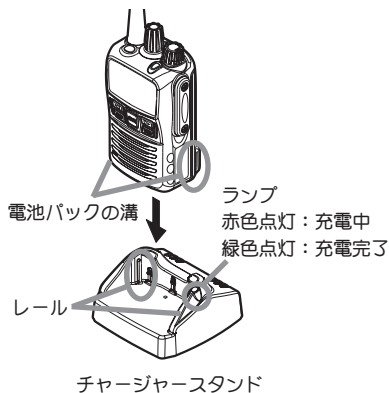
放熱用の穴ですので、シールを貼るなどして塞がないようにしてください。

充電方法

1. チャージャースタンドの背面にあるジャックに、ACアダプターのコネクターを差し込み、電源プラグをコンセント (AC 100V) に接続します。



2. 電源を切ったトランシーバー (または電池パック) をチャージャースタンドに挿し込みます。



3. チャージャースタンドのランプが赤色に点灯し、充電が完了するとランプは緑色に変わります。

補足

充電終了後、ACアダプターをコンセントから外してください。

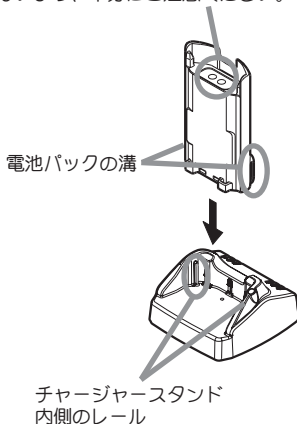
注意

長時間充電したままにしておくと、リチウムイオン電池パックを劣化させることがあります。

電池パック単体で充電するときのご注意

リチウムイオン電池パックを単体で充電するときは、リチウムイオン電池パックの溝をチャージャースタンド内側のレールに合わせて挿し込みます。

電極が上面に露出しますので、金属片などが触れてショートすることがないように、十分にご注意ください。



デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線の登録局は、下表のように分類されています。

種別	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R	351MHz	30	陸上
登録局（上空利用）	3S		5	上空及び陸上

本機は種別コード「3R」の“登録局”として開発されたもので、スカイスポーツ等、上空でのご利用はできません。

チャンネル構成とコールチャンネル

本機のチャンネル構成（ARIB 無線設備の種別コード「3R」）

◎ チャンネル構成

“-CH01-”～“-CH30-”の30チャンネルが利用可能です。

◎ コールチャンネル

“Call-CH15-”は「コールチャンネル」に設定されています。

コールチャンネルでは、ユーザーコード（42ページ参照）は自動的に“000”に設定され、秘話通信（32ページ参照）は自動的に解除されますので、ARIB規格で定めている「呼出用チャンネル」として、ご利用いただけます。

なお、コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。また、コールチャンネルでは“選択”ボタンが無効になりますので、ユーザーコードおよび、秘話通信の設定は、コールチャンネルを除く他のチャンネルでのみ有効となります。

◎ 上空用チャンネルモニター（60ページ参照）

上空用チャンネル（1～5チャンネル）をモニターすることができます（送信することはできません）。

通信方式

VXD20では、下記の二通りの通信方式で運用することができます。

なお、工場出荷時はUC（ユーザーコード）通信に設定されていますので、通信相手と同じ通信通話方式に設定してからご使用ください（42ページ参照）。

◎ UC（ユーザーコード）通信（17ページ参照）

同じチャンネルで、同じUC（ユーザーコード）を設定している者同士が通話できる通信方式。

◎ 個別通信（23ページ参照）

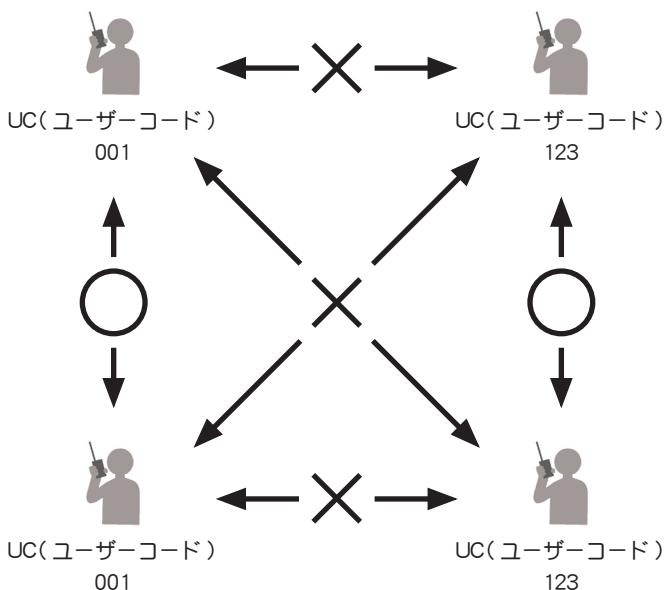
同じチャンネルで、同じUC（ユーザーコード）を設定している特定の相手やグループだけを呼び出して通話できる方式。

UC（ユーザーコード）通信のしかた

全員が同じチャンネル番号にあわせていても、同じUC（ユーザーコード）を設定している者同士だけが、通話することができる通信方式です。

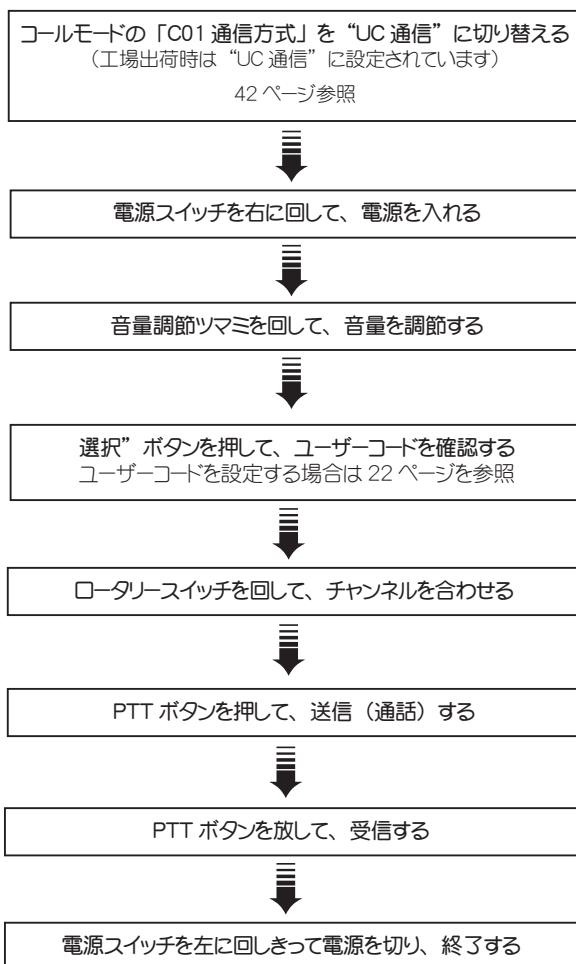
ユーザーコードの設定方法は、次ページを参照してください。

- ◎ ユーザーコードは、3桁の数字で構成されていて、“000”～“511”の間で決めることができます。
- ◎ ユーザーコード“000”は、共通ユーザーコードとして扱われ、受信時はコードが異なる信号も受信できますが、送信時は“000”を設定している相手としか通信することができません。
- ◎ UC通信は、ARIB規格で規定されており、種別コード3Rの他社製デジタル簡易無線トランシーバーと通話互換があります。
- ◎ 本機のUC（ユーザーコード）は、初期値（工場出荷時）では“000”に設定されています。
- ◎ 他ユーザーとの混信を避けるため、UC（ユーザーコード）は“000”以外に設定することをお勧めいたします。
- ◎ ユーザーコード“000”に設定した場合、相手の着信履歴へ残すことができません。



UC（ユーザーコード）通信の設定手順

下記の設定手順で操作を行ってください。



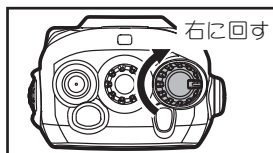
UC (ユーザーコード) 通信方法

① 電源を入れます

電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。

補足

ディスプレイに起動画面が約 1 秒間表示され「ピポッ」と電子音が鳴り、ディスプレイに現在のチャンネルと右下に「UC」が表示されます。



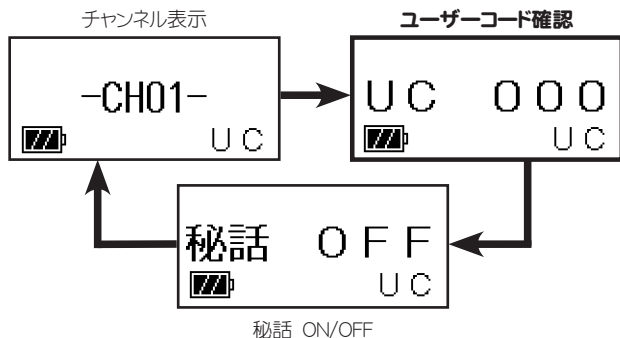
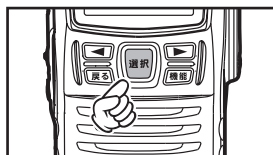
② 音量を調節します

音量調節ツマミを 10 ~ 11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が必要な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。



③ ユーザーコードを確認します

“選択” ボタンを押すと、現在設定されているユーザーコードがディスプレイに表示されますので、相手局と同じコードになっているかを確認します。



注意

コードが異なる場合は、交信できません。必ず相手局と同じユーザーコードに設定してください (22 ページ参照)。

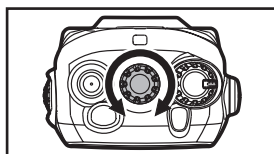
次ページに続く

④ チャンネルをあわせませす

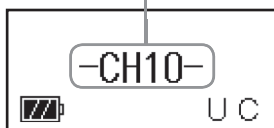
ロータリースイッチをまわして、通話したい相手と同じチャンネルにあわせませす。

補足

“CH01-” にあわせませた時、「ポピピ」というピーブ音が鳴りませす。トランシーバーを腰につけていた状態でも“CH01-”を確認することができませす。



チャンネル番号

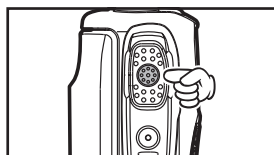


⑤ 送信（通話）しませす

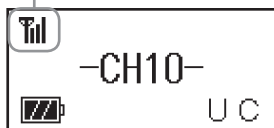
PTT（通話）ボタンを押しながら、マイクに向かって話させす。

補足

- 混信を防ぐため、送信開始直前には、キャリアセンス機能（30 ページ参照）が自動的に動作させす。
- マイクロホンと口元の間隔は、5cm 位が適当で、普通の声で話させす。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声割れたり、歪むことがありませす。
- 送信中は、LED インジケーターが赤色または青色に点灯し（30 ページ参照）、ディスプレイに“**Til**” が点灯させす（送信出力が“Low(1W)” に設定されている場合は“**T**” が点灯させす）。
- 連続送信時間は5分未満と決められていませす。本機では送信を開始してから約4分 50 秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から5分が経過する前に、自動的に送信が止まりませす。そのまま PTT ボタン（送信ボタン）を押し続けた場合、送信を開始してから5分間経過すると、その後1分間は送信禁止状態になりませす。アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。



“**Til**” が点灯

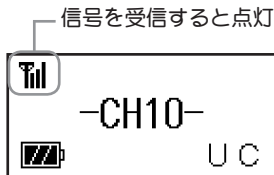


⑥ 相手の音声を受信します

PTT(通話) ボタンを放すと、相手の話を聞くことができます。

補足

信号を受信すると、LEDインジケーターが点滅し(30 ページ参照)、電波の強さに応じて、ディスプレイの“アンテナマーク”が点灯します(最大4本)。



⑦ 電源を切ります

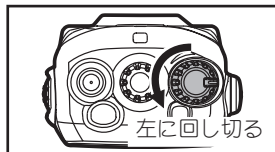
電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

補足

一週間以上使用しない場合は、リチウムイオン電池パックが消耗しないように、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池パックを外してください。

注意

ロータリースイッチを切り替えて2秒以内に電源を切ると、電源を切る直前に設定したチャンネルは記憶されません。



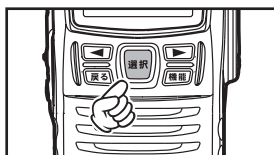
UC (ユーザーコード) の設定方法

“UC (ユーザーコード)” を “000” ~ “511” の間から設定することができます。
相手局と同じチャンネルにあわせていても、ユーザーコードが異なる場合は交信することができませんので、必ず相手局と同じユーザーコードに設定してください

- ① “選択” ボタンを何度か押して、“UC xxx” を表示させます。

補足

“xxx” の部分は、現在設定されているユーザーコードが表示されます。



- ② “◀/▶” ボタンを押すと、ユーザーコードの最上位桁が点滅します。

- ③ ロータリースイッチをまわして、希望の数値にあわせませす。

- ④ “▶” ボタンを押すと右の桁が点滅します。

補足

“▶” ボタンを押すと右の桁に、“◀” ボタンを押すと左の桁に点滅位置が移動します。

- ⑤ 操作③と④を繰り返して、希望のユーザーコードを設定します。

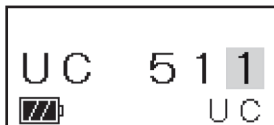
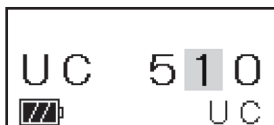
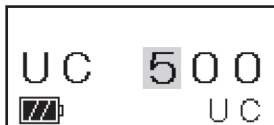
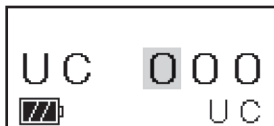
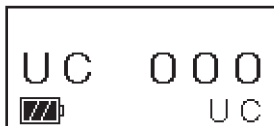
補足

設定できるユーザーコードは “000” ~ “511” です (511 以上の数字にあわせることはできませんが、設定することはできません)

注意

ユーザーコード “000” に設定した場合、相手の着信履歴へ残すことができません。

- ⑥ “選択” ボタンを押すと、ユーザーコードが設定されます。



個別通信のしかた

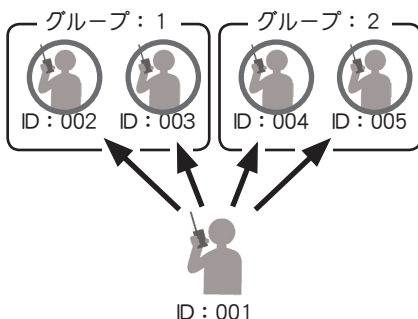
全員が同じチャンネル番号とUC（ユーザーコード）に合わせていても、特定の相手だけを呼び出したり（全員を一斉に呼び出すことも可能）、特定のグループに属する全ての局を呼び出して通話することができる通信方式です。

この通信方式を利用するには、各トランシーバーに個別のID番号（自局IDとグループID）を設定する必要があります。自局IDの設定方法は、コールモードの「C04 自局ID」（44 ページ）をご覧ください。

特定の相手だけを呼び出す



全員を一斉に呼び出す

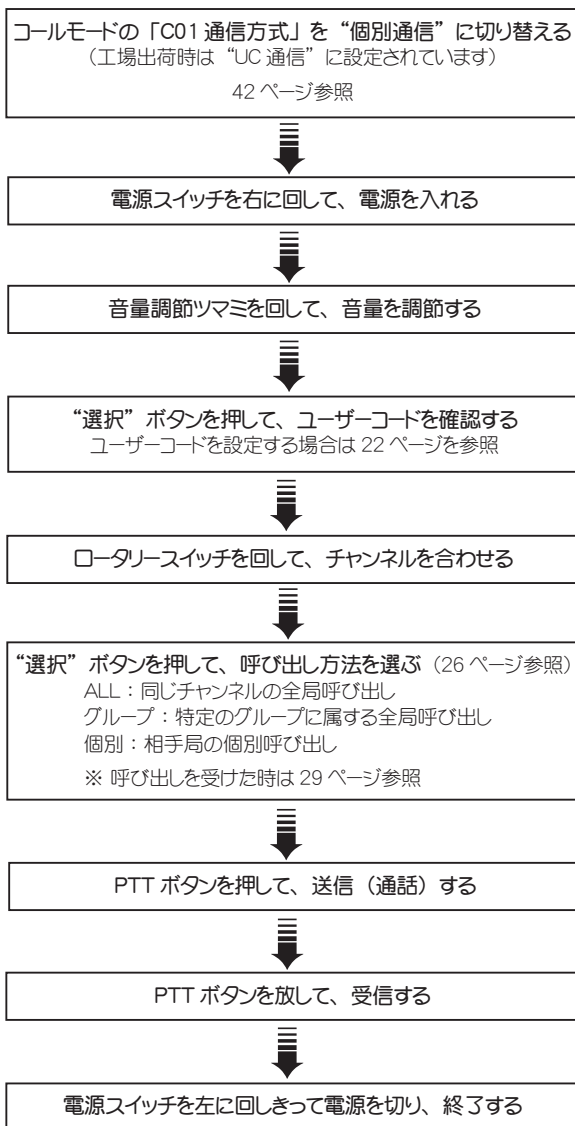


特定のグループに属する全員を呼び出す



個別通信の設定手順

下記の設定手順で操作を行ってください。



呼び出し方法

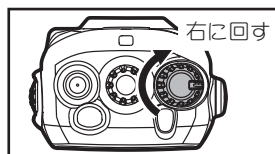
① 電源を入れます

電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。

補足

ディスプレイに起動画面が表示された後、自局IDが約1秒間表示され「ピポツ」と電子音が鳴ります。

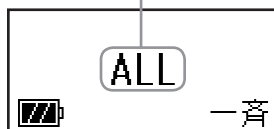
ディスプレイに現在の呼び出し先が表示されます。



初期画面による自局IDの確認



呼び出し先



② 音量を調節します

音量調節ツマミを10～11時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が必要な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。

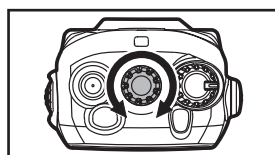


③ チャンネルをあわせませす

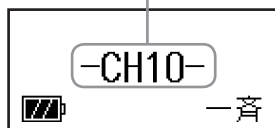
ロータリースイッチをまわして、通話したい相手と同じチャンネルにあわせませす。

補足

“-CH01-”にあわせませた時、「ポピピ」というピープ音が鳴ります。トランシーバーを腰につけていた状態でも“-CH01-”を確認することができます。



チャンネル番号*



次ページに続く

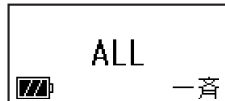
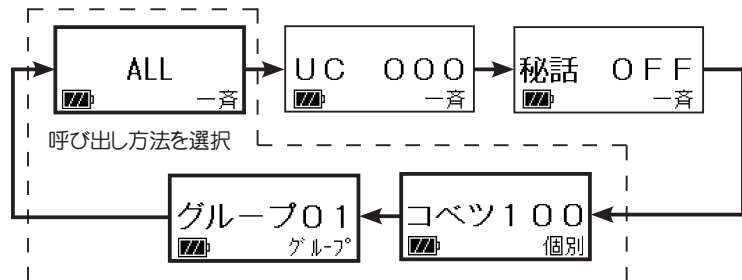
※：ロータリースイッチを回している間は、呼び出し先表示からチャンネル表示に変わります。

④ 呼び出し方法を選びます

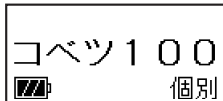
“選択” ボタンを何度か押して、呼び出し方法を選びます。



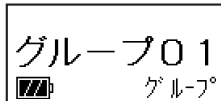
“選択” ボタン何度か押して、呼び出し方法を選択



同じチャンネルにあわせている、全ての局を呼び出したいとき



特定の相手局を個別に呼び出したいとき



あらかじめ設定してあるグループを、一斉に呼び出したいとき

⑤ 呼び出し先（個別 ID）を設定します

特定の相手を呼び出したい時は、呼出先（個別 ID）を設定します。

1. 個別呼出画面（右図参照）で“◀”または“▶” ボタンを押すと、個別 ID の最上位桁が点滅します。
2. ロータリースイッチをまわして、希望の数値にあわせます。





次ページに続く

3. “▶” ボタンを押すと右の桁が点滅します。
“▶” ボタンを押すと右の桁に、“◀” ボタンを押すと左の桁に点滅位置が移動します。
4. 操作2と3を繰り返して、希望の呼出先(個別ID)を設定します。
設定できる呼出先(個別ID)は“001”～“200”です。ただし、“自局ID”(44ページ参照)と同じ数値を設定することはできません。
5. “選択” ボタンを押すと、呼出先(個別ID)が設定されます。

⑥ 送信(通話)します

PTT(通話) ボタンを押しながら、マイクに向かって話します。

補足

- 混信を防ぐため、送信開始直前には、キャリアセンス機能(30ページ参照)が自動的に動作します。
- マイクロホンと口元の間隔は、5cm位が適当で、普通の声で話します。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声割れたり、歪むことがあります。
- 送信中は、LEDインジケータが赤色または青色に点灯し(30ページ参照)、ディスプレイに“”が点灯します(送信出力が“Low(1W)”に設定されている場合は“”が点灯します)。
- 連続送信時間は5分未満と決められています。本機では送信を開始してから約4分50秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から5分が経過する前に、自動的に送信が止まります。
そのままPTTボタン(送信ボタン)を押し続けた場合、送信を開始してから5分間経過すると、その後1分間は送信禁止状態になります。アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。




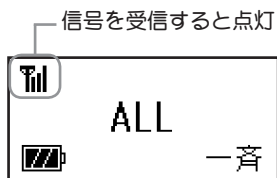
次ページに続く

⑦ 相手の音声を受信します

PTT（通話）ボタンを放すと、相手の話を聞くことができます。

補足

- 信号を受信すると、LED インジケーターが水色に点滅し、電波の強さに応じて、ディスプレイの“”が点灯します（4段階）。
- 相手からの応答がなく、応答待ち時間（通話タイマー 5 秒）が経過すると、自動的に待機状態に戻ります。
- 応答するタイミングは、応答待ち時間以内に行ってください。
- 個別通信では、お互いに通話が終わった時からタイマーがスタートします。



⑧ 電源を切ります

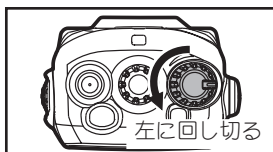
電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

補足

一週間以上使用しない場合は、リチウムイオン電池パックが消耗しないように、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池パックを外してください。

注意

ロータリースイッチを切り替えて 2 秒以内に電源を切ると、電源を切る直前に設定したチャンネルは記憶されません。



呼び出しを受けたとき

個別通信方式で呼び出しを受けると、ディスプレイ表示の点滅、電子音（着信ベル）、LEDの点滅により、呼び出しがあったことを知らせ、同時に通話保持時間（5秒）が設定されます。

- ◎ すぐに応答することができなかった場合、通話保持時間が経過すると“不在着信状態”となり、呼び出してきた相手局IDの表示が点滅します。その状態でPTT（通話）ボタンを押すと、相手局を呼び返すことができます。
- ◎ 不在着信状態をキャンセルする場合は、“戻る”ボタンを押してください。

補足

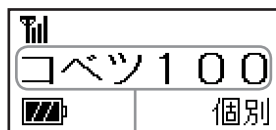
個別通信で呼び出された方式（個別、グループ、一斉）による電子音（着信ベル）などの設定は、41ページの“通信の機能設定 ～コールモード～”を参照してください。また、LEDの表示については、30ページの“LEDインジケータの動作概要”を参照してください。

◎個別呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出してきた相手局のIDが表示され、スピーカーから電子音が一回鳴り、受信中はLEDインジケータが水色に点滅し、待ち受け時は点灯します。

補足

- 相手のIDの点滅表示とLEDインジケータ点灯は、パネル面のボタンまたは、録音ボタンを押すまで続きます。
- 個別呼出しで呼ばれたときは、呼び出してきた相手局のIDが点滅表示され、LEDインジケータが水色に点灯したままになります（不在着信機能）。応答する場合は、そのまま送信ボタンを押すと個別呼出しが行われます。
不在着信は最新1件が表示されます。



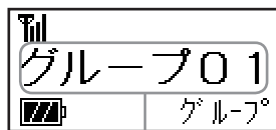
相手局のID

◎グループ呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出されたグループのIDが表示され、受信中はLEDインジケータが水色に点滅し、待ち受け時は点灯します。

補足

呼び出しを受けた際に、電子音を鳴らすことができます（45ページ参照）。



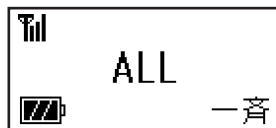
グループID

◎一斉呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、一斉呼び出しを示す“ALL”が表示され、LEDインジケータが水色に点滅します。

補足

グループ呼び出しを受けた時に電子音が鳴るように変更した場合、一斉呼び出しを受けた際も、同様に電子音が鳴ります（45ページ参照）。



通信時に動作する機能に関して

キャリアセンス機能

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。

本機は、デジタル簡易トランシーバー登録局としてキャリアセンス機能を搭載しており、電波法および ARIB 規格により、送信ごとにキャリアセンスを行います。

LED インジケーターによる通話状態の表示

本機は、動作状態を視覚的にわかりやすくお使いいただくために、三原色の LED を使用し、動作状態を以下のように示します。

LED の色・状態	通信（動作）状況
緑色点滅	UC 通信受信時、他局通信時
赤色点滅	電池パック消耗時
赤色点灯	UC 通信送信時、個別通信送信時
青色点滅	秘話 UC 通信受信時、秘話個別通信受信時
青色点灯	秘話 UC 通信送信時、秘話個別通信送信時
水色点滅	個別通信受信時
水色点灯	通話応答待ちの時（および不在着信時）
白色点滅	緊急アラーム動作時及び緊急信号着信時

着信ベル

着信を知らせる電子音「ブルル」を設定している場合、相手局の信号を受信するたびに電子音が鳴るのを避けるため、応答待ち時間を設けています。このため、送受信の後に待ち受け状態のまま約5秒が経過すると、「ポ」という電子音と同時に応答待ち時間が終了し、その後同じユーザーコードの信号を受信すると、新たに着信ベルが鳴ります。

通話中の「ピピピ」音

本機の連続送信時間は“5分”で、約4分 50 秒で予告音「ピピピ」が鳴ります。送信中に「ピピピ」という電子音が鳴った場合、速やかに通話を終了してください。送信を継続すると約 10 秒後に自動的に送信が止まり、通話が中断されます。なお、自動的に送信が中断された場合、その後1分間は送信することができません。

各種の便利な機能

スキャン機能 ～2つのチャンネルで待ち受けする～

現在の通話チャンネルと事前に設定したスキャンチャンネル（工場出荷時：Call -CH15-）を交互に受信しながら、待ち受けすることができます。

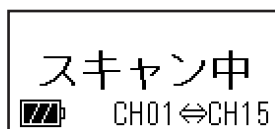
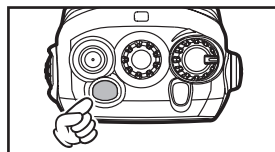
※：セットモード“F17 スキャン”の設定を“ON”にしてください（60 ページ参照）。

“スキャン/緊急”ボタンを短く押します。

ディスプレイに“スキャン中”が表示され、スキャン機能が動作します。

補足

- スキャンしたいチャンネルを設定することができます（“F18 スキャンCH”参照）。
- スキャン動作中に PTT（通話）ボタンを押したときの、送信チャンネルを設定することができます（“F19 スキャンPTT”参照）。
- スキャン動作中に通話を行った後、約5秒後にスキャンを再開させるかどうかを設定することができます（“F20 スキャンRX”参照）。



緊急アラーム機能 ～緊急を知らせる～

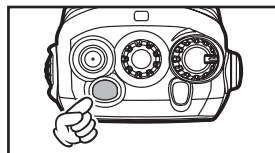
緊急事態をアラーム音とLEDの表示で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して他の仲間に緊急を知らせることができます。

※：セットモード“F05 緊急モード”を“OFF”以外の設定にしてください（53 ページ参照）。

ボタンを3秒以上押し続けます。

補足

- 53 ページに記載の“F05 緊急モード”で設定した動作をおこないます。
- 緊急アラーム機能の動作を停止させるには、電源を切ってください。
- 緊急ボタンはキーロックされません。



◎緊急信号を受信したとき

個別通信時に緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局のIDを表示し、LEDインジケータが白色で点滅します。

さらに、しばらく何も操作をおこなわないと、電子音が鳴り続けます。

補足

- 電子音は、いずれかのボタンを押すと止まります。
- 緊急ボタンを押すと、緊急受信モードは解除されますが、再び緊急信号を受信すると、再度電子音が鳴り始めます。

緊急信号を受信したときに、PTTボタン（送信ボタン）を押して送信すると、自動的に“一斉呼び出し”（同じチャンネルにあわせている、全ての局を呼び出す）に切り替わり、緊急信号を発信した相手局に対して、音声での問いかけや、応答をすることができます（コールモード“C08 緊急宛先”で応答宛先を設定できます）。

秘話通信機能

設定した 32,767 通りの秘話コードが一致するトランシーバー同士のみ交信することができる機能です。

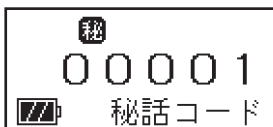
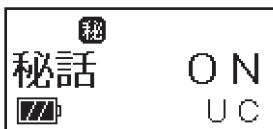
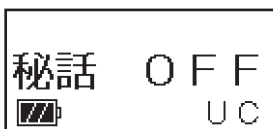
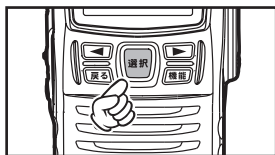
秘話機能を利用する際は、秘話コードの設定が必要です。

工場出荷時は、秘話コードが“00001”に設定されておりますが、ご使用に際し、通話セキュリティを十分に確保するためには、下記の方法で再設定することをお勧めいたします。

- ① “選択” ボタンを何度か押して、“秘話 OFF” を表示させます。
- ② “◀/▶” ボタンを押した後、ロータリースイッチをまわして“秘話 ON”にあわせませす。
- ③ “選択” ボタンを押すと、秘話機能が動作します。ディスプレイに「秘」が点灯します。
- ④ “選択” ボタンを押して、“秘話コード” XXXXX” (XXXXX は“00001”～“32767”の数字) を表示させます。
- ⑤ “◀/▶” ボタンを押すと、秘話コードの最上位桁が点滅します。
- ⑥ ロータリースイッチをまわして、希望の数値にあわせませす。
- ⑦ “▶” ボタンを押すと右の桁が点滅します。
“◀” ボタンを押すと左の桁に点滅位置が移動します。
- ⑧ 操作⑥と⑦を繰り返して、希望の秘話コードを設定します。
- ⑨ “選択” ボタンを押すと、秘話コードが設定されます。
- ⑩ もう一度“選択” ボタンを押すと、チャンネル表示または呼び出し先 ID の表示に戻ります。

補足

“▶” ボタンを押すと右の桁に、“◀” ボタンを押すと左の桁に点滅位置が移動します。



録音機能 ～受信した音声を録音する～

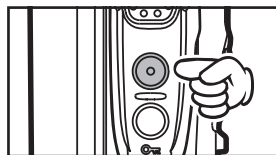
受信している相手の音声を録音することができます。

◎録音のしかた

録音ボタンを押すと**REC**が点灯します。

音声が入ると録音を開始し、音声が無くなると録音を停止します。

再び録音ボタンを押すと**REC**が消灯し、録音機能をOFFにします。



補足

- 録音可能な累積時間は約 80 秒（録音状況により異なります）です。録音中に限度に達すると「ヒピ」とアラームが鳴り**REC**は自動的に消灯し、以降録音ができないことを知らせます。
- 録音累積時間が限度に達すると、録音ボタンは無効となります。新しい録音を可能にするためには録音メモを消去することで再び録音が可能になります。

◎再生のしかた

録音された音声の再生は、簡易リストで行います（36 ページの“録音メモ”を参照）。

補足

録音された内容を消去したい場合は、36 ページの“録音メモ”を参照してください。

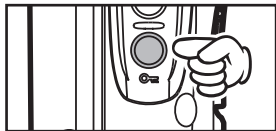
ディスプレイ照明機能

ディスプレイの照明が、約5秒間点灯します。

バックライト / **On** ボタンを短く押します。

補足

照明点灯中にバックライト / **On** ボタンを押すと、照明を消すことができます。



ボタンロック機能

誤って各ボタンを押しても、設定が変わらないようにするキーロックが動作します。

バックライト / **On** ボタンを2秒以上押します。

ディスプレイに “**On**” が点灯し、ボタンがロックされます。



補足

- キーロックが動作中に各ボタンを押すと、ピープ音が鳴ると同時に “- LOCK -” が表示され、ロック中であることを知らせます。
- 工場出荷時ではキーロック機能は “前面” に設定されています (52 ページ参照)。
- PTT (通話) ボタンまたは上面ツマミ類をロックすることができます (セットモード “F04 キーロック” 参照)。

ロックを解除するには

ロックが動作中にバックライト / **On** ボタンを2秒間押し続けます。

ロックが解除され、ディスプレイの “**On**” 表示が消えます。

ポジションライト機能 ~ LED インジケータを点灯 / 点滅させる ~

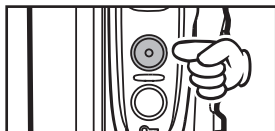
LED インジケータを点灯または点滅させ続けることができますので、夜間などの暗い所で簡易ライトやトランシーバーの所在確認などの機能として使用することができます。

※ : セットモード “F21 P ライト” の設定を行ってください (62 ページ参照)。

録音 / P ライトボタンを2秒以上押します。

補足

- ポジションライト機能が動作中に、ランプボタンを約2秒間押し続けると、ポジションライト機能を停止させることができます。
- LED インジケータの点灯 / 点滅および、色を変更することができます (62 ページの “F21 P ライト” および 63 ページの “F22 P ライトカラー” 参照)。
- ポジションライト機能は、電源を切ると自動的に “OFF” になります。
- ポジションライト機能は、送信時および信号受信時は動作しません。



ピープ音によるチャンネル確認

“-CH01-” にあわせ時、“ポピピ” というピープ音が鳴りますので、トランシーバーを腰につけてディスプレイが確認できないような場合でも、“-CH01-” を確認することができます。

簡易リスト

待ち受け画面で“機能”ボタンを押すと、録音内容の再生、個別 ID、グループ ID を確認することができます。

項目	設定値 / 表示項目	機能
リピート再生	-	自動で録音されている相手局の音声を再生します
録音メモ	-	録音された音声を再生します
自局情報	個別 ID / グループ ID	個別 ID やグループ ID を表示します

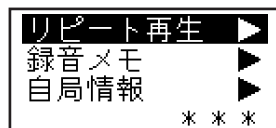
リピート再生

本機は通信を行っている際に、相手の音声を自動で録音しています。通話内容を聞き逃した時などに、内容を確認することができます。

補足

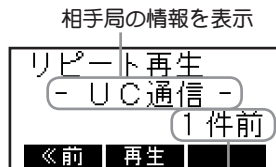
- 録音可能な時間は合計約 60 秒（録音状況により異なります）で、録音中にこの時間が経過すると、録音は中止されます。
- 新たに開始される録音は、既に録音された内容に上書きされていきます。
- 電源を切ると、録音された内容は消去されます。

- ① 待ち受け画面で“機能”ボタンを押します。
- ② “リピート再生”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ 録音件数が複数ある場合は、“◀”または“▶”ボタンで、再生したい件数を選択します。
リピート再生件数は録音の新しい順に 1 から順番されます。
- ④ “選択”ボタンを押すと、録音された内容を再生します。



補足

- 再生中に“選択”ボタンを押すと、再生を停止します。
 - 何も録音されていない場合は“録音無し”が表示されます。
 - 電源を切ると録音された内容は消去されます。
- ⑤ 再生していない状態で“戻る”ボタンを押します。
リピート再生を行う前の画面に戻ります。



押すごとに
古い件数を表示する

録音件数を表示
1 件前とは、「1 件目のリピートあり」を表す

録音メモ

録音ボタンを押して録音した相手の音声を再生することができます。

- ① 待ち受け画面で“機能”ボタンを押します。
- ② ロータリースイッチをまわして“録音メモ”を選択して、“選択”ボタンを押します。
- ③ “◀”ボタンを押します。

補足

録音された内容を消去したい場合は、操作②の後、以下の操作を行ってください。全ての録音内容が消去されます。

1. ▶ボタンを押します。
2. ◀ボタンを押すと消去されます。

- ④ 録音件数が複数ある場合は、“◀”または“▶”ボタンで、再生したい録音番号を選択します。

録音件数は録音の古い順に1から付番されます。

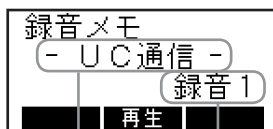
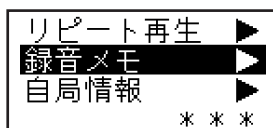
- ⑤ “選択”ボタンを押すと、録音された内容を再生します。

補足

- 再生中に“選択”ボタンを押すと、再生を停止します。
- 何も録音されていない場合は“録音無し”が表示されます。

- ⑥ 再生していない状態で“戻る”ボタンを押します。

録音メモ再生を行う前の画面に戻ります。



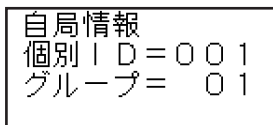
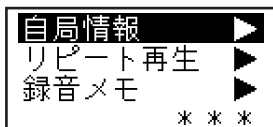
相手局の情報を表示

録音件数を表示

自局情報

トランシーバーに設定してある、個別ID、グループIDを表示させることができます。

- ① 待ち受け画面で“機能”ボタンを押します。
- ② ロータリースイッチをまわして“自局情報”を選択します。
- ③ “選択”ボタンを押すと、設定されている内容が表示されます。
- ④ “戻る”ボタンを押します。
情報を表示させる前の画面に戻ります。



送受信メニュー ～個別通信時で使用する機能です～

待ち受け画面で“機能”ボタンを約2秒以上押しと、相手と交信可能かどうかの確認、発着信履歴、メッセージの確認などの操作をおこなうことができます。

注意

工場出荷では、UC通信に設定されていますので、機能ボタンの長押し（約2秒以上）は無効になっています。

項目	機能
アンサーバック	待ち受け画面に表示されている相手局と、交信できる状態かを確認することができます（セットモードF12アンサーバック設定ONの場合）。
着信履歴	着信した信号の発信元を、新しい順に表示します（最大10件）。
発信履歴	発信した信号の発信先を、新しい順に表示します（最大10件）。
メッセージ送信	あらかじめ登録されたメッセージ（10件）を送信することができます。
メッセージ確認	受信したメッセージを、新しい順に表示します（最大10件）。

アンサーバック

画面に表示された個別表示の相手局に対し、交信できる状態かを確認することができます。

注意

この機能は ALL とグループでは利用できません。

- ① 待ち受け画面で“機能”ボタンを2秒以上押しします。
- ② “アンサーバック”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
セットモードF12アンサーバックの設定がOFFの場合は無効になり、送信状態になりません。
- ③ 送信状態になり、相手局に対して「問い合わせ」の信号を送出して、その後結果を表示します。

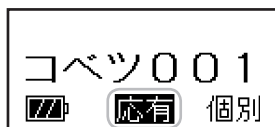
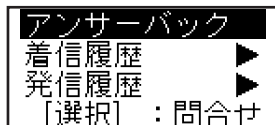
応有：相手局と交信可能な状態です。

応無：「相手局の電源が入っていない」、「距離が離れすぎている」などの原因で、相手局と交信できない状態です。

補足

相手局がVXD-10の場合は、この機能に対応していないため、交信できる状態であっても“応無”となります。

- ④ “戻る”ボタンを押します。
結果を表示させる前の画面に戻ります。

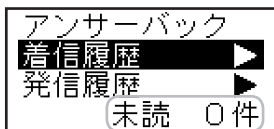


問い合わせの結果

着信履歴

これまでに着信した信号の発信元を、新しい順に最大 10 件まで表示することができ、PTT ボタン(送信ボタン)を押すと、表示されている ID の相手を呼び出すことができます。

- ① 待ち受け画面で“機能”ボタンを 2 秒以上押しします。
- ② □-ロータリースイッチをまわして“着信履歴”を選択し、“選択”ボタンを押します。
- ③ 着信履歴が表示されます。



未読件数

補足

- □-ロータリースイッチを回すと、着信履歴を切り換えることができます。
- ▶ ボタンを押した後に ◀ ボタンを押すと、選択されている履歴を消去することができます(▶ ボタンでキャンセル)。
- PTT ボタンを押すと、選択されている ID の相手を呼び出すことができます。

注意

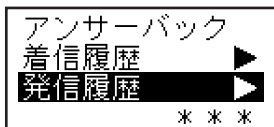
ユーザーコード“000”を着信した場合、着信履歴に残りません。

- ④ “戻る”ボタンを押します。
着信履歴を表示させる前の画面に戻ります。
電源スイッチを切ると履歴はクリアされます。

発信履歴

これまでに発信した信号の発信先を、新しい順に最大 10 件まで表示することができ、PTT ボタン(送信ボタン)を押すと、表示されている ID の相手を呼び出すことができます。

- ① 待ち受け画面で“機能”ボタンを 2 秒以上押しします。
- ② □-ロータリースイッチをまわして“発信履歴”を選択し、“選択”ボタンを押します。
- ③ 発信履歴が表示されます。



補足

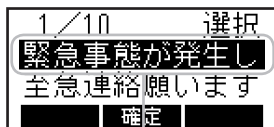
- □-ロータリースイッチをまわすと、発信履歴を切り換えることができます。
- ▶ ボタンを押した後に ◀ ボタンを押すと、選択されている履歴を消去することができます(▶ ボタンでキャンセル)。
- PTT ボタンを押すと、選択されている ID の相手を呼び出すことができます。

- ④ “戻る”ボタンを押します。
発信履歴を表示させる前の画面に戻ります。
電源スイッチを切ると履歴はクリアされます。

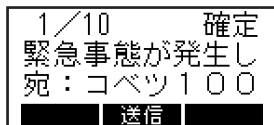
メッセージ送信

あらかじめ登録されたメッセージ(10件)を送信することができます。

- ① 待ち受け画面で“機能”ボタンを2秒以上押します。
- ② ロータリースイッチをまわして“メッセージ送信”を選択し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして送信したいメッセージを選択し、“選択”ボタンを押します(下表参照)。
- ④ 再度“選択”ボタンを押すと、選択したメッセージを送信します。
メールマークが点滅します。
- ⑤ 個別宛先で送信した場合に限り、相手局に正しくメッセージが届いたかどうかの結果を表示します。
応有：正しくメッセージが届いた場合。
応無：正しくメッセージが送られなかった場合。
- ⑥ “戻る”ボタンを押します。
メッセージを送る前の画面に戻ります。



メッセージを選択



メッセージを受信すると、ディスプレイに“☑”マークが点滅し、同時にメッセージを表示(スクロール)します。

メッセージを確認後“戻る”ボタンを押すと、メッセージを受信する前の状態に戻ります。

注意

VXD-10にメッセージを送ることはできません。

メッセージ一覧表

番号	メッセージ	番号	メッセージ
1	緊急事態が発生しました	6	集合してください
2	至急連絡願います	7	開始しました
3	運転中です	8	完了しました
4	出発しました	9	作業中です
5	到着しました	10	待機中です

メッセージ確認

これまでに受信したメッセージを、新しい順に最大 10 件まで表示することができます。

- ① 待ち受け画面で“機能” ボタンを 2 秒以上押します。
- ② ロータリースイッチをまわして“メッセージ確認” を選択し、“選択” ボタンを押します。
- ③ メッセージの着信履歴が表示されます。

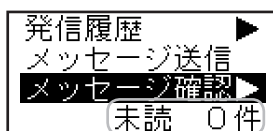
補足

- ロータリースイッチをまわすと、着信履歴を切り換えることができます。
- ▶ ボタンを押した後に ◀ ボタンを押すと、選択されている履歴を消去することができます (▶ ボタンでキャンセル)。

- ④ “戻る” ボタンを押します。

着信履歴を表示させる前の画面に戻ります。

電源を切ると履歴はクリアされます。



未読件数

通信の機能設定 ～コールモード～

各種 ID、通信方式など、通信時に使用する情報や機能の設定（11 項目）をおこなうことができます。

項目	初期値	設定値	機能
C01 通信方式	UC 通信	UC 通信 / 個別通信	通信方式の選択
C02 UC モード*	CH 共通	CH 共通 / CH 毎	ユーザーコードの適用チャンネル設定
C03 UC ベル	0 回	0 回～ 3 回	同一 UC 呼び出し電子音の回数設定
C04 自局 ID	001	001～ 200	自局 ID の設定
C05 グループ ID	01	01～ 30	グループ ID の設定
C06 個別ベル	1 回	0/1/2/3/4/5 回	個別呼び出し時の電子音の回数設定
C07 グループベル	0 回	0/1/2/3 回	グループ / 一斉呼び出し時の電子音の回数設定
C08 緊急宛先	一斉	一斉 / 個別	緊急信号を送信する際の宛先設定
C09 緊急個別 ID	***	001～ 200	緊急を知らせたい相手局の ID 設定
C10 緊急応答宛先	一斉応答	一斉応答 / 緊急応答 / 個別応答	個別通信時の緊急着信時応答宛先 ID の選択
C11 秘話モード*	CH 共通	CH 共通 / CH 毎	秘話コードの適用チャンネル設定

コールモードの具体的な操作方法は、42 ページ以降を参照してください。

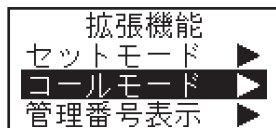
補足

- C09 緊急個別 ID は、C08 緊急宛先を「個別」に設定しないと登録できません。
- セットモードの詳細は、49 ページ以降を参照してください。

CO1 通信方式

UC通信と個別通信を切り換えることができます。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択”ボタンを押します。
- ③ “通信方式”が選択されているか確認し、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の通信方式を選択します。
UC通信：UC通信方式で運用するとき。
個別通信：個別通信方式で運用するとき。
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の通信方式

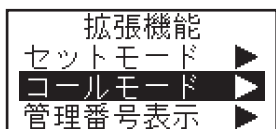


通信方式

CO2 UCモード ～ UC通信で使用する設定です～

UC(ユーザーコード)を設定する際、チャンネルごとに設定するか、全てのチャンネルのユーザーコードを共通にするかを設定します。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“UCモード”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の設定を選択します。
CH共通：設定したユーザーコードが全てのチャンネルに適用されます。
CH毎：チャンネルごとにユーザーコードを設定することができます。
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

C03 UCベル ～ UC通信で使用する設定です～

UC通信で運用中、同一UCの他局から呼び出しを受けた時に鳴る電子音の回数を、変更することができます。

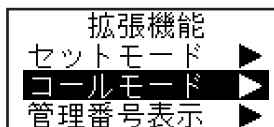
- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“UCベル”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の回数を選択します。

設定できる回数は“0回”～“3回”です。

補足

UCベルは、5秒以内の繰り返し呼び出しの場合、呼び出し音はなりません。

- ⑤ “選択”ボタンを押します。その後電源を切ると設定は終了です。



現在の電子音が鳴る回数

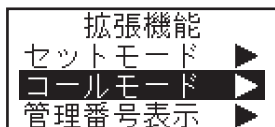


電子音が鳴る回数

C04 自局 ID ～個別通信で使用する設定です～

トランシーバーに設定されている自局の ID (自局の個別番号) を変更することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“自局 ID” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の数字を選択します。
設定できる ID は“001”～“200”です。
◀/▶ ボタンを押すと桁の移動ができます。
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると変更は終了です。



現在の自局 ID

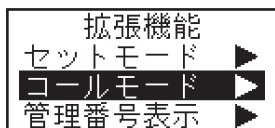


自局 ID

C05 グループ ID ～個別通信で使用する設定です～

トランシーバーに設定されているグループ ID を変更することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“グループ ID” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の ID を選択します。
設定できる ID は“01”～“30”です。
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると変更は終了です。



現在のグループ ID

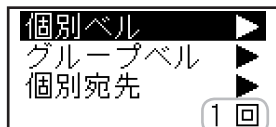
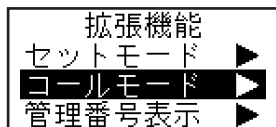


グループ ID

C06 個別ベル ～個別通信で使用する設定です～

個別呼び出しを受けた時に鳴る電子音の回数を、変更することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“個別ベル”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の回数を選択します。
設定できる回数は“0回”～“5回”です。
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の電子音が鳴る回数

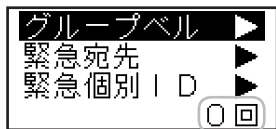
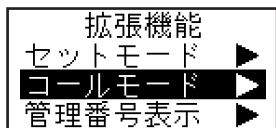


電子音が鳴る回数

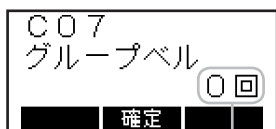
C07 グループベル ～個別通信で使用する設定です～

グループ/一斉呼び出しを受けた時に鳴る電子音の回数を、変更することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“グループベル”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の回数を選択します。
設定できる回数は“0回”～“3回”です。
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の電子音が鳴る回数



電子音が鳴る回数

C08 緊急宛先 ～個別通信で使用する設定です～

緊急信号を送信する際の宛先を設定します。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“緊急宛先”の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の宛先を選択します。

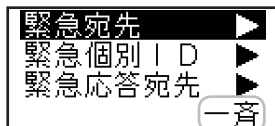
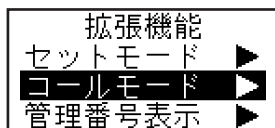
一斉：同一ユーザーの全ての局に対し、一斉に緊急を知らせることができます。

個別：特定の局にだけ、緊急を知らせることができます。

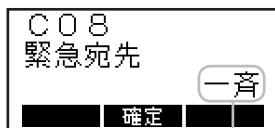
補足

- 本設定は個別通信時のみ動作しません。
- 本設定はF05 緊急モードを「BP+T」「S」「T」に設定した時に動作する機能です。
- 「個別」に設定した場合、緊急を知らせたい相手局の個別IDは C09 緊急個別ID で設定します。
- 「個別」に設定した場合、緊急宛先を「一斉」に設定したトランシーバーから送出された緊急信号は受信できません。

- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

C09 緊急個別 ID ～個別通信で使用する設定です～

緊急宛先を個別に設定した場合の、緊急を知らせたい相手局の個別 ID を設定します。

※：コールモード“C08 緊急宛先”を“個別”に設定してください(46 ページ参照)。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“緊急個別 ID”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の個別 ID を設定します。

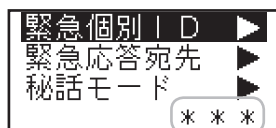
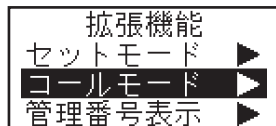
設定できる ID は“001”～“200”です。

◀/▶ ボタンを押すと桁の移動ができます。

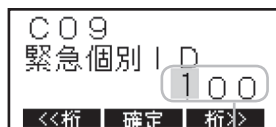
補足

- 自局 ID は設定できません。
- C 08 緊急宛先を個別に設定しないと緊急個別 ID は登録できません。

- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の緊急個別 ID



緊急個別 ID

C10 緊急応答宛先 ～個別通信で使用する設定です～

緊急着信が発生した場合の応答宛先として切替える ID を選択します。

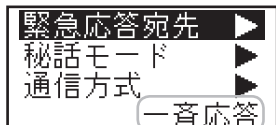
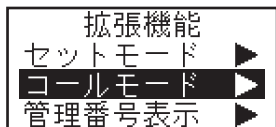
- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“緊急応答宛先”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の応答宛先を選択します。

個別応答：宛先を相手局の「個別 ID」に切替えます。

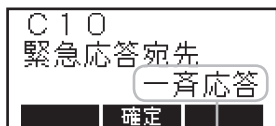
一斉応答：宛先を「一斉」に切替えます。

緊急応答：C08 緊急宛先で設定している緊急宛先に切替え、緊急信号を送出します。

- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の緊急応答宛先

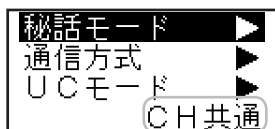
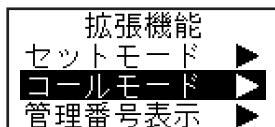


緊急応答宛先

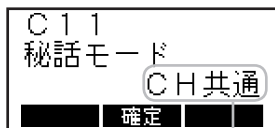
C11 秘話モード

秘話通信機能の秘話コードを設定する際、チャンネルごとに設定するか、全てのチャンネルの秘話コードを共通にするかを設定します。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② 回転リレースイッチをまわして“コールモード”に設定し、“選択” ボタンを押します。
- ③ 回転リレースイッチをまわして、“秘話モード”の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ 回転リレースイッチをまわして、希望の通信方式を選択します。
CH 共通：設定した秘話コードが、全てのチャンネルに適用されます。
CH 毎：チャンネルごとに秘話コードを設定することができます。
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

トランシーバーの詳細設定 ～セットモード～

本機に内蔵された、各機能の設定（23項目）をおこなうことができます。

項目	初期値	設定値	機能
F01 ビープレベル	レベル08	レベル00～レベル15	操作音（ビープ音）の音量設定
F02 外部マイク	0 dB	+10/+6/+3/0 -3/-6/-12/-18	外部マイクの感度設定
F03 内部マイク	0 dB	+10/+6/+3/0 -3/-6/-12/-18	本体内部マイクの感度設定
F04 キーロック	前面	前面 / 上部 / 全て / 前面+上部 / PTT	ロック範囲の設定
F05 緊急モード	OFF	OFF/BP+T/S/T/BP	緊急モードの動作設定
F06 TXビープ	OFF	OFF/ON	送信開始時の電子音設定
F07 RXビープ	OFF	OFF/ON	相手局の送信終了音の設定
F08 ノイズキャンセル	ON	ON/OFF	ノイズキャンセル機能の設定
F09 送信出力	High	High/Low/ 受信専用	送信出力の設定
F10 弱電界アラーム	OFF	OFF/ON	受信信号が極端に弱い場合に鳴るアラームの設定
F11 不在着信ベル	OFF	OFF/ 5秒毎×2/ 2秒毎 / 1分毎 / 連続	個別着信時に応答しなかった場合に鳴るベルの設定
F12 アンサーバック	OFF	OFF/ON	相手局に電波が届いているかを確認する機能の設定
F13 電池残量警報	ON	ON/OFF	ビープ音でバッテリーの残量が少なくなったことを知らせる機能の設定
F14 電池残量表示	リチウム	リチウム / アルカリ	使用する電池の種類を選択
F15 コントラスト	レベル08	レベル00～レベル15	LCDコントラスト調整
F16 上空CH	OFF	OFF/ モニタ	上空用チャンネルモニターの設定
F17 スキャン	OFF	OFF/ON	スキャン機能の設定
F18 スキャンCH	Call	CH01～CH30	スキャンチャンネル番号の設定
F19 スキャンPTT	通話CH	通話CH/ スキャンCH	スキャン機能の動作中のPTT動作設定
F20 スキャンRX	ON	ON/OFF	スキャン機能の着信後のスキャン再開設定
F21 Pライト	OFF	OFF/ 常時点灯 / 高速点滅 / 低速点滅	ポジションライト機能の設定
F22 Pライトカラー	ALL	ALL/ 青 / 緑 / 水色 / 赤 / 紫 / 黄 / 白 / 青（高輝度）/ 緑（高輝度）/ 水色（高輝度）/ 赤（高輝度）/ 紫（高輝度）/ 黄（高輝度）/ 白（高輝度）	ポジションライトの点灯色の設定
F23 設定リセット	-	-	拡張機能の設定を初期値（ご購入時の状態）に戻します

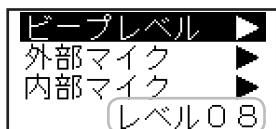
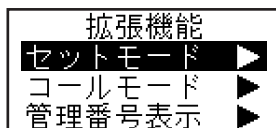
補足

セットモードの基本的な操作方法は、50ページ以降を参照してください。

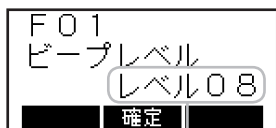
F01 ビープレベル

ボタンやスイッチを押したときに鳴る確認音の、音量を設定することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ “ビープレベル” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ④ □-ロータリースイッチをまわして、希望の音量を選択します。
設定できる音量レベルは“00”～“15”です。
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の音量レベル

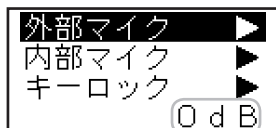
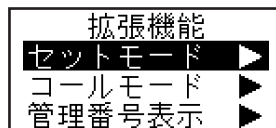


音量レベル

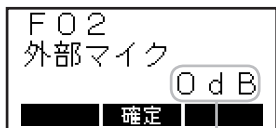
F02 外部マイク

外部マイクロホンのマイク感度を設定することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ □-ロータリースイッチをまわして、“外部マイク” に設定し、“選択” ボタンを押します。
- ④ □-ロータリースイッチをまわして、希望の感度を選択します。
マイク感度は、下記の8段階から選択することができます。
(低) “-18” ↔ “-12” ↔ “-6” ↔ “-3” ↔ “0”
↔ “+3” ↔ “+6” ↔ “+10” (高)
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在のマイク感度



マイク感度

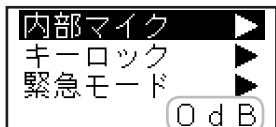
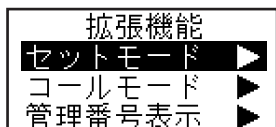
F03 内部マイク

トランシーバー本体に内蔵してあるマイクのマイク感度を設定することができます。

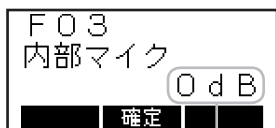
- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“内部マイク” に設定し、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の感度を選択します。
マイク感度は、下記の 8 段階から選択することができます。

(低) “-18” ↔ “-12” ↔ “-6” ↔ “-3” ↔ “0”
↔ “+3” ↔ “+6” ↔ “+10” (高)

- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在のマイク感度



マイク感度

F04 キーロック

ロック機能を動作させたときの、ロックさせる条件を設定することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“キーロック”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望のロック範囲を選択します。

前面 : トランシーバー前面（側面を含む）にあるボタンがロックされます。

上部 : ロータリースイッチとスキャン/緊急ボタンがロックされます。

全て : PTT ボタンを含めた、上部、前面（側面を含む）の各ボタン、及びロータリースイッチがロックされます。

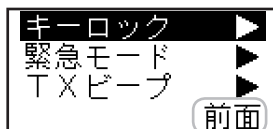
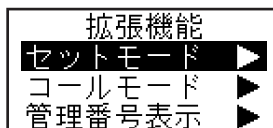
前面+上部 : PTT ボタンを除く、上部、前面（側面を含む）の各ボタン及びロータリースイッチがロックされます。

PTT : PTT ボタンだけがロックされます。

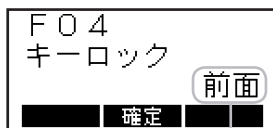
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。

補足

- バックライトボタン、キーロックボタン、緊急ボタンはロックされません。
- 本機を“受信専用機”として使用する場合は、送信操作を禁止するために“PTT”に設定してください。



現在の設定



設定

F05 緊急モード

緊急アラーム機能の動作を設定することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“緊急モード” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の動作を選択します。

OFF : 緊急アラーム機能は動作しません。

S : サイレント状態で緊急信号を送信します。ディスプレイ表示とLEDは緊急動作中も変化しません。また、緊急動作中にPTTボタン（送信ボタン）を押すと、相手局と通話することができます。

補足

この設定は、個別通信時のみ動作します。

T : 自局のIDを含んだ緊急信号を送信します。また、緊急動作中にPTTボタン（送信ボタン）を押すと、相手局と通話することができます。

補足

この設定は、個別通信時のみ動作します。

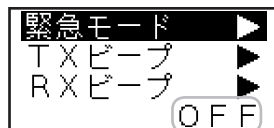
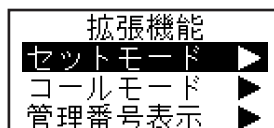
BP : トランシーバーのスピーカーから、緊急アラームを鳴らします。

BP+T : 上記“T”の動作を行った後、“BP”の動作を行います。

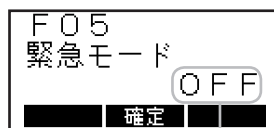
補足

この設定は、UC通信時に“BP”の動作を行います。

- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の動作



動作

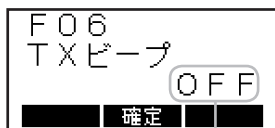
F06 TX ビープ

送信開始時に、通話ができる状態になったことを知らせるビープ音を ON/OFF します。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“TX ビープ” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、TX ビープの ON/OFF を選択します。
ON : TX ビープが動作し、通話ができる状態になるとビープ音が鳴ります。
OFF : TX ビープの動作が OFF になります。
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

F07 RX ビープ

受信中の通話が終了したことを知らせるビープ音を、ON/OFF します。個別通信時または、“000” 以外の同じユーザーコードに設定してある相手局の信号を受信した時のみ動作します。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② ロータリースイッチをまわして“セットモード” を選択し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“RX ビープ” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、RX ビープの ON/OFF を選択します。
ON : RX ビープが動作し、通話ができる状態になるとビープ音が鳴ります。
OFF : RX ビープの動作が OFF になります。
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

F08 ノイズキャンセル機能

周囲の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信する「ノイズキャンセル機能」をON/OFFします。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“ノイズキャンセル”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、ノイズキャンセル機能のON/OFFを選択します。

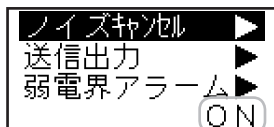
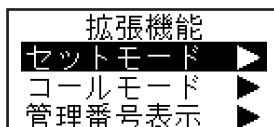
ON：ノイズキャンセル機能が動作します。

OFF：ノイズキャンセル機能がOFFになります。

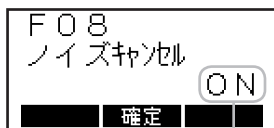
補足

ノイズキャンセル機能を“ON”にする際は、“F02 外部マイク”および“F03 内部マイク”の設定を“0dB”以下にしてください。

- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定

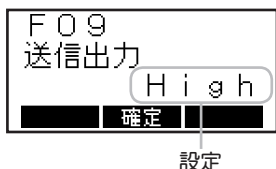
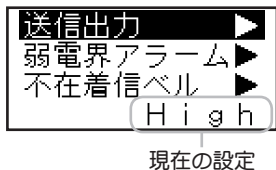
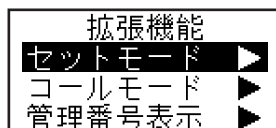


設定

F09 送信出力

送信出力（発射する電波の強さ）を“High”（5W）と“Low”（1W）から選択することができます。距離の近い相手と交信するときは、送信出力を“Low”に、また、本機を受信専用機として使用する場合は“受信専用”に設定してください。

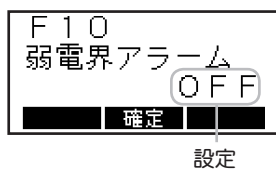
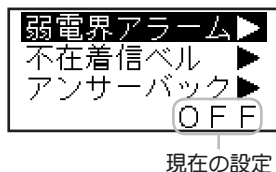
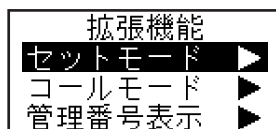
- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“送信出力”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の設定を選択します。
High : 送信出力が 5W に設定されます。
Low : 送信出力が 1W に設定されます。
受信専用 : PTT ボタン（送信ボタン）を押しても、送信しなくなります。
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



F10 弱電界アラーム

受信している信号が、極端に弱くなったことを知らせるアラーム音を、ON/OFFします。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“弱電界アラーム”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、弱電界アラームの ON/OFF を選択します。
ON : 受信信号が極端に弱くなると、アラーム音が鳴ります。
OFF : 弱電界アラームの動作が OFF になります。
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



F11 不在着信ベル ～個別通信で使用する機能です～

相手からの個別呼び出しを受けた後、応答しなかった場合、設定した条件でベル（電子音）を鳴らすことができます。

なお、“グループ呼び出し”や“一斉呼び出し”での着信の場合は、ベルは鳴りません。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“不在着信ベル”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の設定を選択します。

OFF : 不在着信ベルの動作が OFF になります。

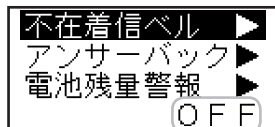
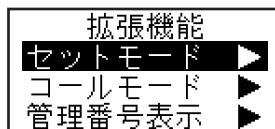
5秒毎×2 : 着信後、5秒間経過するとベルが鳴り、更に5秒間経過すると再度ベルが鳴ります。

2秒毎 : 着信後2秒毎にベルが鳴ります。

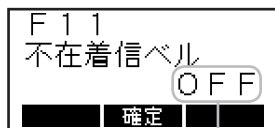
1分毎 : 着信後1分毎にベルが鳴ります。

連続 : 着信するとベルが鳴り続けます。

- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

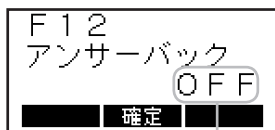
F12 アンサーバック ～個別通信で使用する機能です～

アンサーバック機能を、ON/OFF することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“アンサーバック” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、アンサーバックの ON/OFF を選択します。
ON : アンサーバック機能を使用できます。
OFF : アンサーバック機能が OFF になります。
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

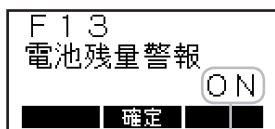
F13 電池残量警報

ピープ音により、バッテリーの残量が少なくなったことを知らせる機能を、ON/OFF することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“電池残量警報” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、電池残量警報の ON/OFF を選択します。
ON : バッテリーの残量がなくなると警報音を鳴らします。
OFF : 電池残量警報機能が OFF になります。
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

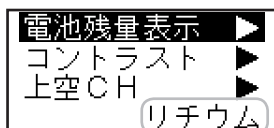
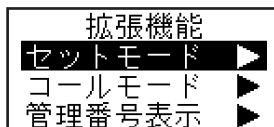
補足

- 警報音は約2分間隔でピープ音が鳴ります。
- 送信中は鳴りません。

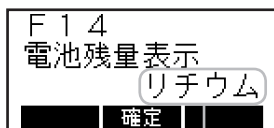
F14 電池残量表示

ディスプレイの“電池残量表示”の精度を上げるため、使用する電池の種類を設定してください。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“電池残量表示”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、使用する電池パックの種類にあわせませす。
リチウム：リチウムイオン電池パックを使用する際に選択します。
アルカリ：アルカリ電池を使用する際に選択します。
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定

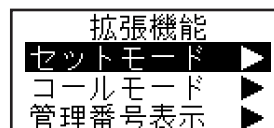


設定

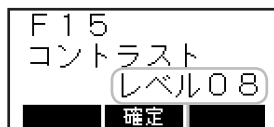
F15 コントラスト

ディスプレイのコントラストを調整することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“コントラスト”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望のコントラストを選択します。
設定できるコントラストは“00”～“15”です。
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

F16 上空CH

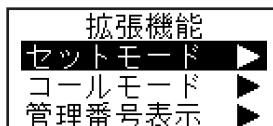
上空用チャンネルをモニターすることができます。なお、本機の上空用チャンネルは、モニターのみで送信することはできません。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“上空CH”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の設定を選択します。

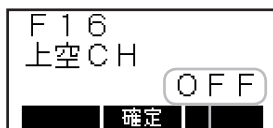
モニタ：上空用チャンネルをモニターが可能で
す。

OFF：上空用チャンネルモニターがOFFにな
ります。

- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

F17 スキャン

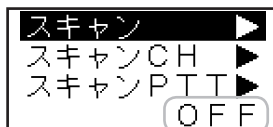
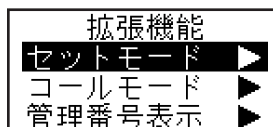
現在のチャンネルと設定したチャンネルを交互に受信し、信号が入感したチャンネルを自動的に受信することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“スキャン”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、スキャン機能のON/OFFを選択します。

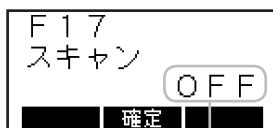
ON：スキャン機能が動作し、信号が入感したチャ
ンネルを受信します。

OFF：スキャン機能がOFFになります。

- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定

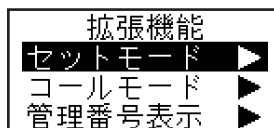


設定

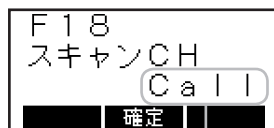
F18 スキャン CH

現在のチャンネル（通話チャンネル）と交互に受信したいチャンネル（スキャンチャンネル）を設定します。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“スキャン CH” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望のスキャンチャンネルを選択します。
設定できるチャンネルは“CH01”～“CH30”です。
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定

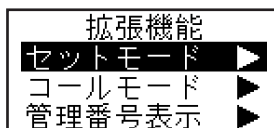


設定

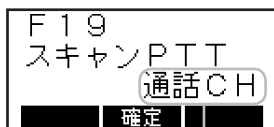
F19 スキャン PTT

スキャン機能動作時の PTT（通話）ボタン操作で送信状態になるチャンネルを設定することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“スキャン PTT” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の動作を選択します。
通話 CH：通話チャンネルで送信します。
スキャン CH：スキャンチャンネルで送信します。
- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定

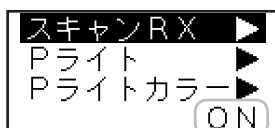
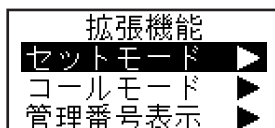


設定

F20 スキャンRX

スキャン機能動作時に信号を受信した際、その後スキャンを再開させるかどうかを設定することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“スキャンRX”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、スキャン機能再開のON/OFFを選択します。
ON：スキャン機能が再開します。
OFF：スキャン機能はOFFになります。
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定

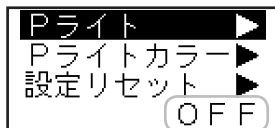
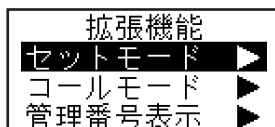


設定

F21 Pライト（ポジションライト）

ポジションライト機能動作時のLEDインジケータの点灯条件を設定することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択”ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択”ボタンを放します。
- ② “セットモード”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“Pライト”の表示にあわせ、“選択”ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の動作を選択します。
常時点灯：設定された色で点灯します。
高速点滅：設定された色で点滅します。
低速点滅：設定された色で“高速点滅”より長い間隔で点滅します。
OFF：ポジションライト機能はOFFになります。
- ⑤ “選択”ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定



設定

F22 P ライトカラー

ポジションライト機能動作時のLEDインジケータの色を設定することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“P ライトカラー” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ ロータリースイッチをまわして、希望の色を選択します。

ALL : 14 種の色が順番に点灯します。

青 : 青色に点灯します。

緑 : 緑色に点灯します。

水色 : 水色に点灯します。

赤 : 赤色で点灯します。

紫 : 紫色で点灯します。

黄 : 黄色で点灯します。

白 : 白色で点灯します。

青（高輝度）：青色で高輝度点灯します。

緑（高輝度）：緑色で高輝度点灯します。

水色（高輝度）：水色で高輝度点灯します。

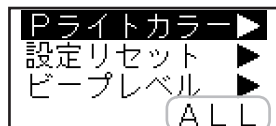
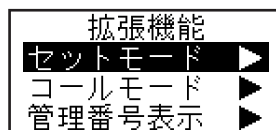
赤（高輝度）：赤色で高輝度点灯します。

紫（高輝度）：紫色で高輝度点灯します。

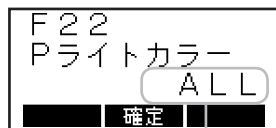
黄（高輝度）：黄色で高輝度点灯します。

白（高輝度）：白色で高輝度点灯します。

- ⑤ “選択” ボタンを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定

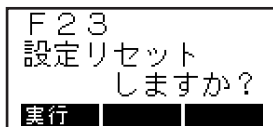
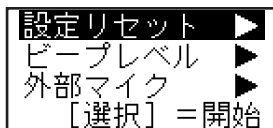
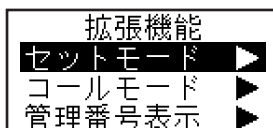


設定

F23 設定リセット

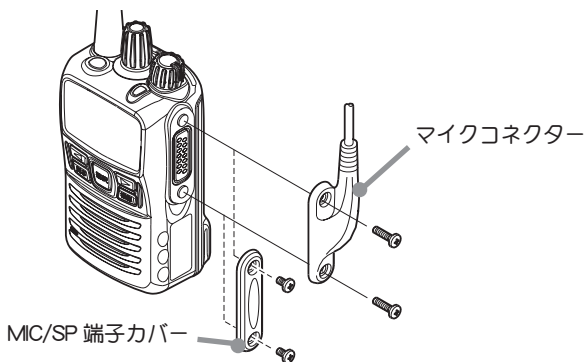
拡張機能の設定を、ご購入時の状態（工場出荷時の状態）に戻すことができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチをまわして、“設定リセット” の表示にあわせ、“選択” ボタンを押します。
- ④ “◀” ボタンを押すと、設定がリセットされます。リセットを中止する場合は、“戻る” ボタンを押してください。



オプションマイクの取り付け

MIC/SP 端子カバーのビスを外し、マイクコネクタに付属のビスで取り付けます。



補足

- MIC/SP 端子を時々乾いた布や綿棒で拭いてください。端子が汚れていると、接触不良になって、正しく使用できなくなります。
- オプションを接続しないときは、MIC/SP 端子カバーを取り付けておいてください。

オプションマイクの感度切り替え方法

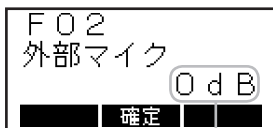
オプションマイクを使用した際、マイク感度を調節することができます。

- ① 一度電源を切り、“選択” ボタンを押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら“選択” ボタンを放します。
- ② “セットモード” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
- ② ロータリースイッチをまわして、“外部マイク” を表示させて、“選択” ボタンを押します。
- ③ ロータリースイッチで希望の感度を選びます。

マイクの感度は、下記の 8 段階から選択することができます。

(低) “-18” ↔ “-12” ↔ “-6” ↔ “-3” ↔ “0” (標準) ↔ “+3” ↔ “+6” ↔ “+10” (高)

- ④ “選択” ボタンを押します。
- ⑤ 電源を切ると設定は終了です。

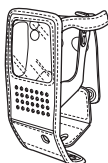


マイク感度

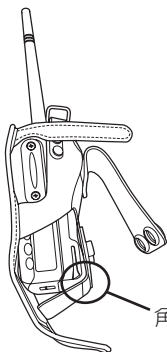
キャリングケース“LCC-D450”の使いかた

LCC-D450は、“FNB-V86シリーズ”または“FNB-V87シリーズ”を装着したVXD20で使用することができます。

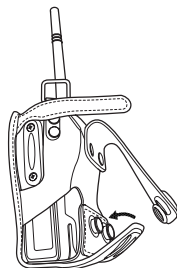
1. キャリングケース“LCC-D450”に、VXD20を入れます。
※ ホールド性を良くするために、若干きつく作られています。
3. キャリングケース前面カバーの穴を、背面カバーのボタンに通します。



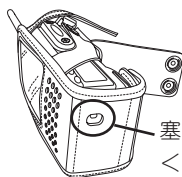
2. 電池パックの角とキャリングケース背面カバーの折り目を合わせます。



角に合わせて折る

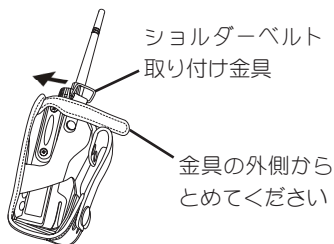


VXD20底面にある、ノイズキャンセリングマイク孔が塞がっていないことを確認してください。塞がっていると、ノイズキャンセルの効果が得られない場合があります。

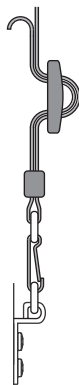


塞がないようにしてください

4. ショルダーベルト 取り付け金具を前方向に押し付けながら、マジックテープを金具の外側からしっかりととめてください。

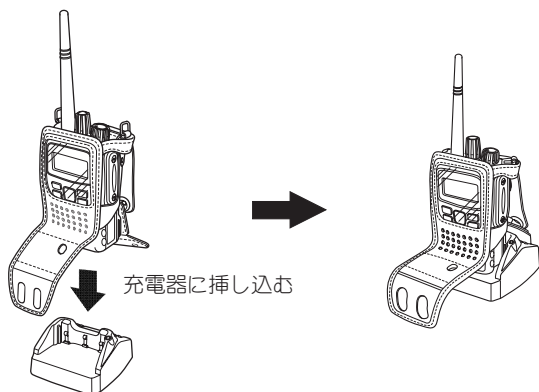


必要に応じて、キャリングケースの金具に、LCC-D450 に付属のショルダーベルトを取り付けます。



充電する際は、下図のようにキャリングケースの底面を開くだけで充電器にセットすることができます。

注意 背面カバーのボタンと充電器の端子をショートしないように注意してください。感電や充電器を破損することがあります。



故障かな？と思う前に

間違った操作をしていませんか？ 修理を依頼される前に、ちょっとお確かめください。

◎ 電源が入らない！

- リチウムイオン電池パックまたはアルカリ乾電池が消耗していませんか？
 - ➡ リチウムイオン電池パック使用時
リチウムイオン電池パックを充電してください。
 - ➡ 乾電池ケース“FBA-34”使用時
新しいアルカリ乾電池に交換してください。
- リチウムイオン電池パックまたは FBA-34 の端子が接触不良になっていませんか？
 - ➡ 端子を乾いた布で拭いてください。
- リチウムイオン電池パックが古くなっていませんか？
 - ➡ リチウムイオン電池パックの寿命です。新しいリチウムイオン電池パックとお取り替えください。

◎ 送信できない！

- PTT（通話）ボタンを正しく押していますか？
- 送信出力の設定が“受信専用”になっていませんか？
- 上空用チャンネルになっていませんか？
 - ➡ “CH S1 上空”～“CH S5 上空”チャンネルは、モニターのみで送信することはできません。

◎ 通話できない！

- 相手局と同じチャンネルに設定していますか？
- 相手局との距離が離れすぎていませんか？
- 相手局と同じ通信方式に設定していますか？
- 相手局と同じユーザーコードに設定していますか？
- 秘話通信機能が動作していませんか？
 - ➡ お互いに秘話通信機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、交信することはできません。

オプション

- | | |
|----------------------------|--------------|
| ◎ 薄型リチウムイオン電池パック： | FNB-V86 シリーズ |
| ◎ 標準型リチウムイオン電池パック（付属品と同等）： | FNB-V87 シリーズ |
| ◎ 大容量リチウムイオン電池パック： | FNB-V92 シリーズ |
| ◎ 急速充電器（付属品と同等）： | VAC-50A |
| ◎ 連結型充電器： | CD-51 |
| ◎ 連結型充電器用 AC アダプター： | PA-47A |
| ◎ アンテナ（付属品と同等）： | ATU-12J |
| ◎ 防水型スピーカーマイク： | MH-66A7A |
| ◎ コンパクトスピーカーマイク： | MH-82A7A |
| ◎ スピーカーマイク： | MH-83A7A |
| ◎ タイピンマイク&イヤホン： | EK-505W |
| ◎ 小型タイピンマイク&イヤホン： | EK-313-581 |
| ◎ 咽喉マイク&イヤホン： | EM-01-581 |
| ◎ 小型スピーカーマイク： | EK-404-581 |
| ◎ イヤホンアダプター： | EA-581 |
| ◎ EA-581 用イヤホン： | ME101/100CM |
| ◎ アルカリ単 3 乾電池ケース： | FBA-34 |
| ◎ クイックリリースブラケット： | CLIP-17B |
| ◎ キャリングケース： | LCC-D450 |

詳細等はカタログ及び八重洲無線株式会社のホームページ <http://www.yaesu.com/jp/> を参照してください。

定 格

一般

送 受 信 周 波 数	デジタル簡易無線登録局 (6.25kHz 間隔、30 波) 351.20000MHz ~ 351.38125MHz 上空用チャンネル (6.25kHz 間隔、5波) 351.16875MHz ~ 351.19375MHz(モニターのみ可)		
電 波 型 式	F1E / F1D		
通 信 方 式	単信 (プレストーク) 方式		
電 池 持 続 時 間	FNB-V86 シリーズ	約 8 時間	
	FNB-V87 シリーズ	約 14 時間	
	FNB-V92 シリーズ	約 18 時間	
	(送信出力 5W 時、送信 5、受信 5、待ち受け 90 の繰り返し)		
電 源 電 圧	DC 7.4V ± 10%		
消 費 電 流	DC 7.4V	送信時 (出力 5W 時)	約 1.6A
		送信時 (出力 1W 時)	約 0.8A
		受信待ち受け時	約 80mA
		受信定格出力時	約 350mA
温 湿 度 範 囲	温度 - 20°C ~ + 60°C 湿度 95%(35°C)		
本 体 寸 法	56mm × 96mm × 46mm (FNB-V87LIA 使用時)		
本 体 重 量	約 330g (FNB-V87LIA, ヘルムクリップ, アンテナ, MIC/SP 端子カバーを含む)		

送信部

空 中 線 電 力	5W/1W (+ 20%、- 50% 以内)		
空 中 線 インピーダンス	50 Ω 不平衡		
発 振 方 式	水晶発振制御による周波数シンセサイザ方式		
周 波 数 許 容 偏 差	± 1.5ppm 以内		
変 調 方 式	4 値 FSK		
占 有 周 波 数 帯 域 幅	5.8kHz 以下		
最 大 周 波 数 偏 移	± 1324Hz 以内		
隣 接 チャンネル 漏 洩 電 力	- 52dB 以下 (5W 時)		
ス プ リ ア ス 発 射	2.5 μW 以下		
不 要 輻 射	2.5 μW 以下		
標 準 変 調 入 力	- 44dBm ± 5dB		
変 調 入 力 インピーダンス	600 Ω		

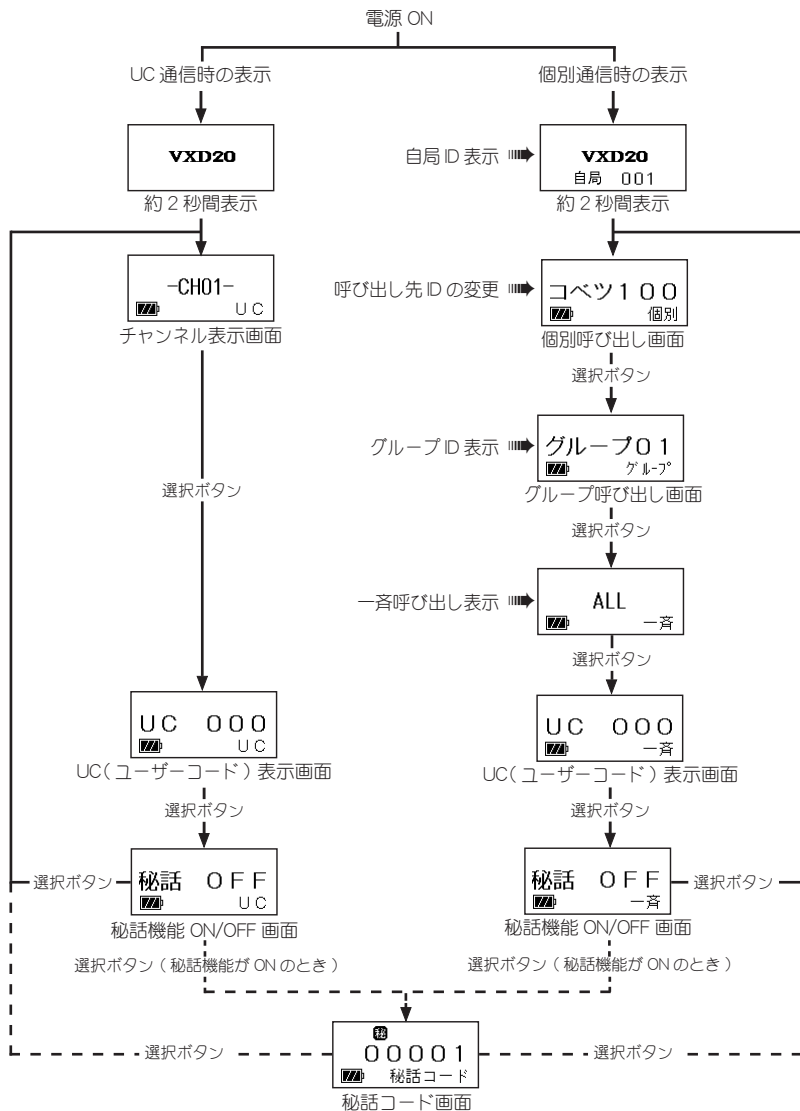
受信部

受 信 方 式	ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン方式		
中 間 周 波 数	第一	50.85MHz	
	第二	2.304MHz	
局 部 発 振 周 波 数	第一	受信周波数 - 50.85MHz	
	第二	48.546MHz	
局 発 周 波 数 変 動	± 1.5ppm 以内		
受 信 感 度	- 2dB μV (BER=1%)		
ス プ リ ア ス レ ス ポ ン ス	53dB 以上 (BER=1%)		
隣 接 チャンネル 選 択 度	6.25kHz 42dB 以上 (BER=1%)		
相 互 変 調 特 性	53dB 以上 (BER=1%)		
低 周 波 出 力	0.7W 以上 (10% 歪時)		
低 周 波 出 力 インピーダンス	16 Ω		
副 次 的 に 発 生 する 電 波 等 の 強 度	4nW 以下		

※ RoHS 指令対応

付 録

“選択” ボタンを押したときの動作と表示



チャンネル構成と通信方式

UC(ユーザーコード)、個別 ID、グループ ID を記入してお使いください。

チャンネル	UC 通信	個別通信
	UC (ユーザーコード) (全チャンネル / チャンネルごと)	個別 ID・グループ ID (全チャンネル共通)
- CH01 -		
- CH02 -		
- CH03 -		
- CH04 -		
- CH05 -		
- CH06 -		
- CH07 -		
- CH08 -		
- CH09 -		
- CH10 -		
- CH11 -		
- CH12 -		
- CH13 -		
- CH14 -		
Call - CH15 -	ALL (各種の設定を行うことはできません)	
- CH16 -		
- CH17 -		
- CH18 -		
- CH19 -		
- CH20 -		
- CH21 -		
- CH22 -		
- CH23 -		
- CH24 -		
- CH25 -		
- CH26 -		
- CH27 -		
- CH28 -		
- CH29 -		
- CH30 -		
CH S1 上空	モニターのみ (送信できません)	
CH S2 上空		
CH S3 上空		
CH S4 上空		
CH S5 上空		

索引

記号	か	スキャンPTT	61
◀▶ ボタン	外部マイク	スキャンRX	62
On ボタン	各種の便利な機能	スピーカー	9
	各部の名前と機能		
	簡易リスト		
		せ	
欧字	き	設定リセット	64
A	キーロック	セットモード	49
AC アダプター	キーロックボタン	全員を一斉に呼び出す	23
ARIB 種別コード	機能ボタン	選択ボタン	9, 70
	キャリアセンス機能		
L	キャンニングケース	そ	
LED インジケーター	急速充電器	送受信メニュー	37
	緊急宛先	送信出力	56
M	緊急アラーム機能		
MIC/SP 端子	緊急応答宛先	た	
	緊急個別 ID	ダミーボード	2, 11
P	緊急ボタン		
PTT ボタン	緊急モード	ち	
P ライト		着信ベル	30
P ライトカラー	く	着信履歴	38
P ライトボタン	グループ ID	チャージャースタンド	2, 14
	グループベル	チャンネル構成	16, 71
R	グループ呼び出し		
RX ビープ		つ	
	構成品	通信の機能設定	41
T	コールチャンネル	通信方式	16, 42
TX ビープ	コールモード	通信方法	19, 71
	故障かな?と思う前に	通話ボタン	9
U	個別通信		
UC の設定	個別通信の設定手順	て	
UC モード	個別ベル	定格	69
UC 通信	個別呼び出し	ディスプレイ	9, 10
UC 通信の設定手順	ご利用にあたって	ディスプレイ照明機能	33
UC ベル	コントラスト	デジタル簡易無線局	16
		電源スイッチ	8
かな	こ	電池残量警報	58
あ	グループ ID	電池残量表示	59
アフターサービス	グループベル	電池の消耗	12
アンサーバック	グループ呼び出し	電波干渉	2
安全上のご注意			
アンテナ	構成品	と	
アンテナコネクター	コールチャンネル	登録局	16
	コールモード	特定の相手だけを呼び出す	23
い	故障かな?と思う前に	特定のグループを呼び出す	23
一斉呼び出し	個別通信	トランシーバーの詳細設定	49
	個別通信の設定手順		
お	個別ベル	な	
オプション	個別呼び出し	内部マイク	51
オプションマイク	ご利用にあたって		
音量調節ツマミ	コントラスト	す	
		スキャン	8, 31, 60
	し	スキャン CH	61
	自局 ID		
	自局情報		
	弱電界アラーム		
	上空 CH		
	充電方法		

の		め	
ノイズキャンセリング	9	メッセージ確認	40
ノイズキャンセル機能	55	メッセージ送信	39
は		免責事項	1
はじめに	1	も	
バックライトボタン	9, 33	戻るボタン	9
発信履歴	38	ゆ	
ハンドストラップ	2, 11	ユーザーコード通信	16, 17
ひ		よ	
ピピピ音	30	呼び出し方法	25
ピープ音による		呼び出しを受けたとき	29
チャンネル確認	34	り	
ピープレベル	50	リチウムイオン電池	
秘話通信機能	32	持続時間	12
秘話モード	48	リチウムイオン電池/バック	2, 13
ふ		リチウムイオン電池/バック	
不在着信ベル	57	の取り付け	12
付録	70	リチウムイオン電池/バック	
へ		の取り外し	12
ベルトクリップ	2, 11	リチウムイオン電池/バック	
ほ		のリサイクル	13
防水性	2	リピート再生	35
ポジションライト	62	リセット	64
ポジションライト機能	34	ろ	
ボタンロック機能	34	ロータリースイッチ	8
ま		録音機能	33
マイク	9	録音ボタン	9, 33
マイク感度	50, 51, 65	録音メモ	36
む			
無線局登録申請	1, 2		
無線局登録申請 の手引き	1, 2		



正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがご購入
いただいた販売店または、下記までご相談ください。

取扱説明書の記載内容を予告無く変更する場合があります。
詳しくは下記の URL をご覧ください。

販売：八重洲無線株式会社 国内営業部

〒 140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8
天王洲パークサイドビル

電話：03-6711-4055

URL：http://www.yaesu.com/jp/

製造：バーテックススタンダード LMR 合同会社



© 2012~2014 バーテックススタンダード LMR 合同会社
無断転載・複写を禁ず

中国印刷